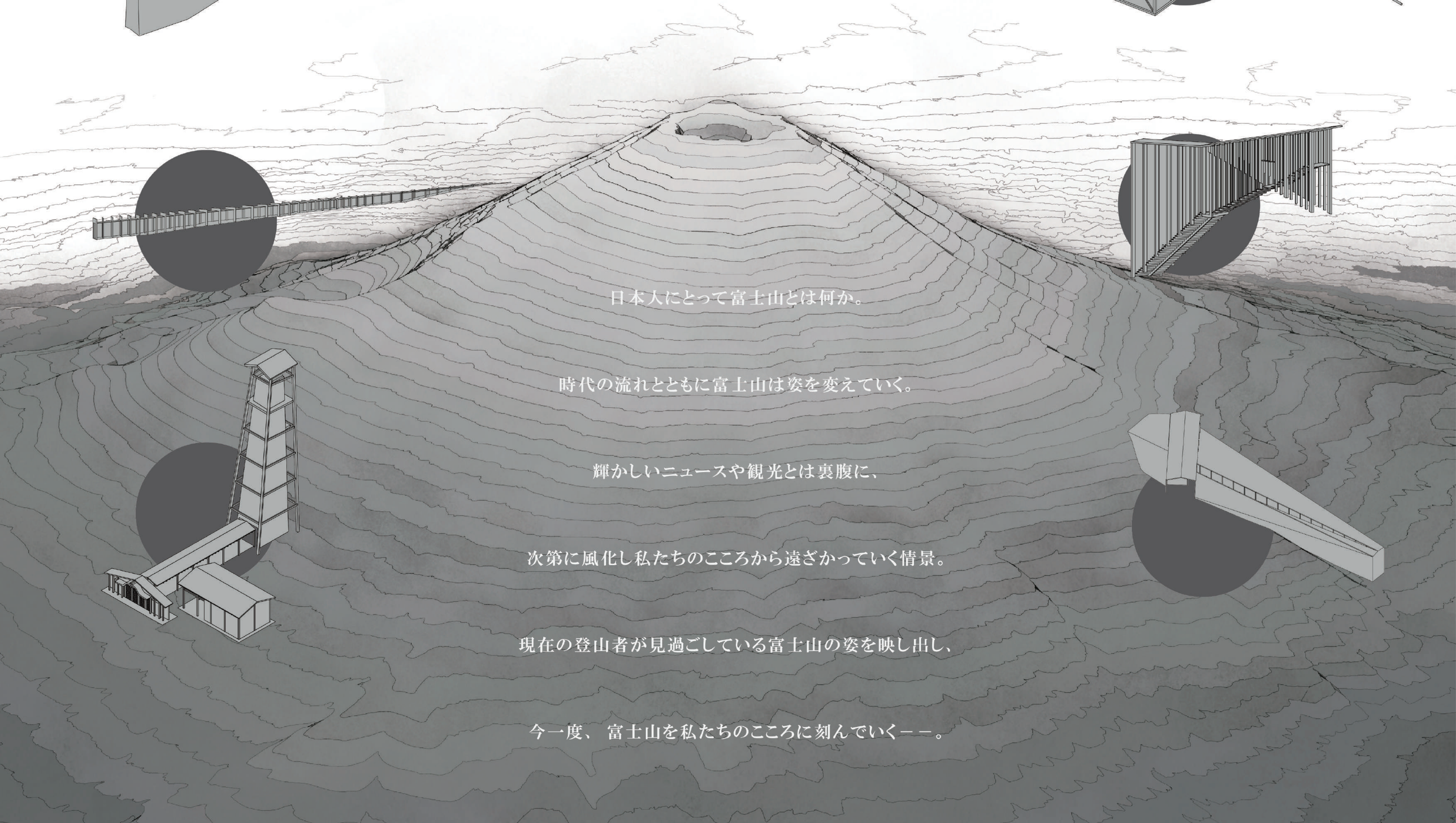
富嶽反転

ー富士山の内的情景をうつしだすー



日本人にとって富士山とは何か。

時代の流れとともに富士山は姿を変えていく。

輝かしいニュースや観光とは裏腹に、

次第に風化し私たちのこころから遠ざかっていく情景。

現在の登山者が見過ごしている富士山の姿を映し出し、

今一度、富士山を私たちのこころに刻んでいくーー。

01 設計背景・主旨

01 日本人と富士山

富士山は、 日本人のこころの山と言われている。

古来から多くの日本人が思いをはせ、

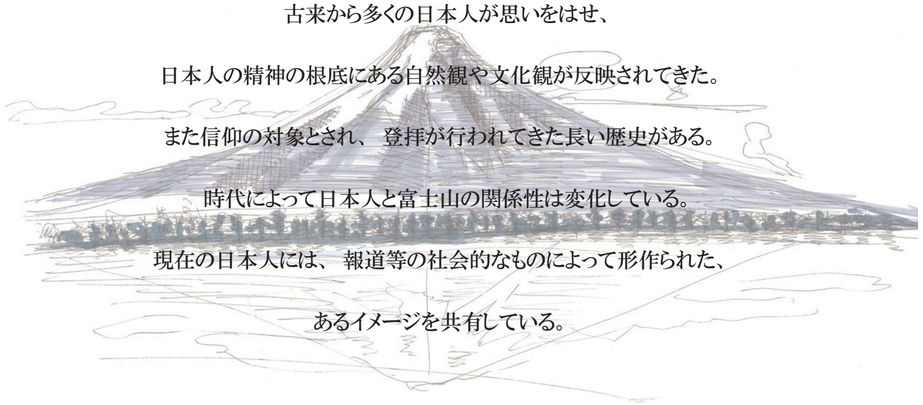
日本人の精神の根底にある自然観や文化観が反映されてきた。

また信仰の対象とされ、 登拝が行われてきた長い歴史がある。

時代によって日本人と富士山の関係性は変化している。

現在の日本人には、 報道等の社会的なものによって形作られた、

あるイメージを共有している。



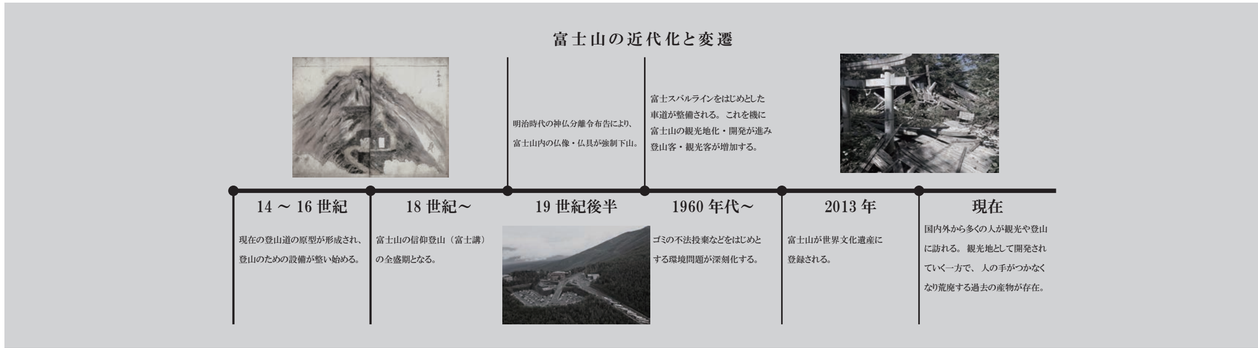
02 富士登山の現状

戦後以降、 交通網の発達によって富士山の中腹までのアクセスが容易になると、

富士山の観光地化が進み、 富士登山が大衆化・レジャー化される。

富士登山がより多くの日本人にとって身近なものになる一方で、

時代の流れとともに失われたものや、 見過ごされている風景が存在していることに気づく。



03 富士登山の現状

舗装された単調な道をただ登る

登山者の視点はいつも足元にある

富士山の文化を通り過ぎていく

山頂に近づくと混雑する登山道

今年の夏、 富士山に登った。 整備され統一化された単調な道は、

山頂を目指す登山者の目的と安全を最適化しているが、

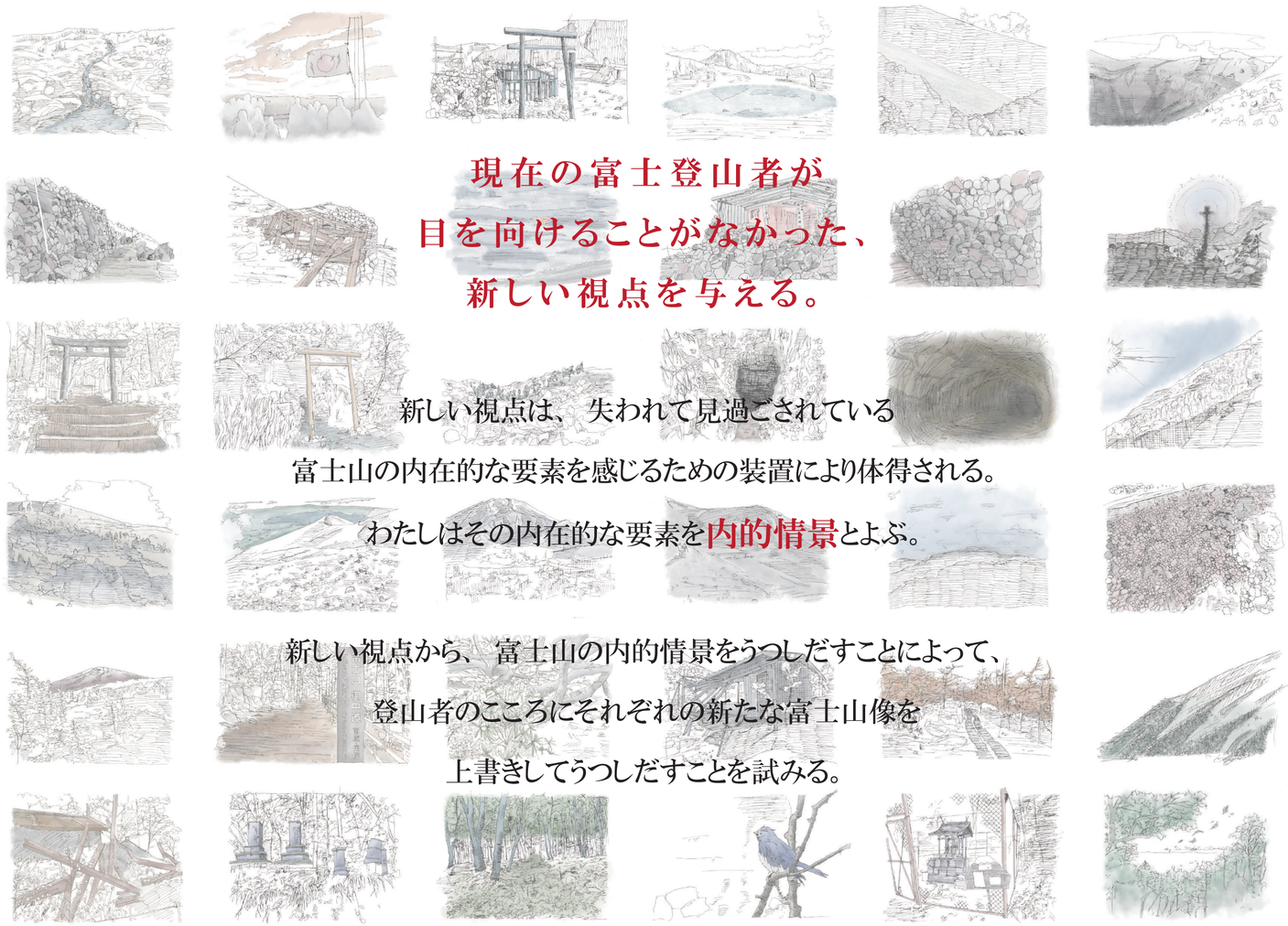
同時に富士山の微細な自然環境や、 過去の痕跡等の内在的な要素から

登山者の目を遮っているようだ。

多くの登山者の主題は登頂経験であり、 登頂しても富士山との距離感を感じる。

私はどこか、 今の富士登山に、 ある違和感を感じた。

04 設計主旨



現在の富士登山者が
目を向けることがなかった、
新しい視点を与える。

新しい視点は、 失われて見過ごされている

富士山の内在的な要素を感じるための装置により体得される。

わたしはその内在的な要素を**内的情景**とよぶ。

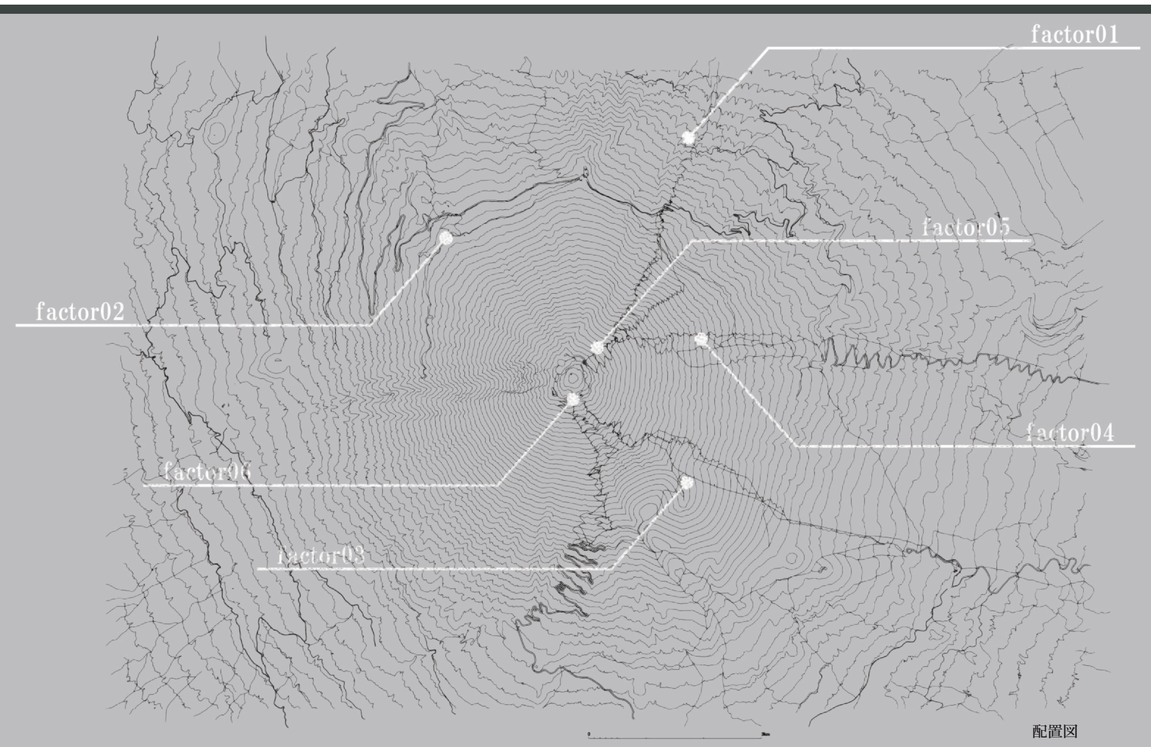
新しい視点から、 富士山の内的情景をうつしだすことによって、

登山者のこころにそれぞれの新たな富士山像を

上書きしてうつしだすことを試みる。

02 計画敷地・分析

01 計画敷地



配置図

現在の富士山において

時代の流れとともに風化し、 失われた大地や構造物、

すなわち人の手がつかなくなり廃墟となった建物や、

山頂を目指すのみの富士登山において、見

過ごされている大地６カ所を選定する。

02 敷地分析

それぞれの場所でみられる**内的情景**を描き出す。

内的情景とは、 登頂が主題になっている現在の富士登山において

見過ごされている富士山の自然や文化、

富士山に対する日本人の思いの根源となるものである。

標高差によって自然環境が大きく変化する富士山では、

それぞれの場所において多様で異なる要素が存在する。

富士山はこうした様々な小さな要素の集合体なのである。

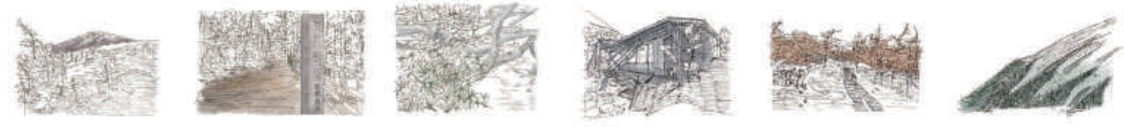
factor06

factor05

factor04

factor03

factor02



factor01

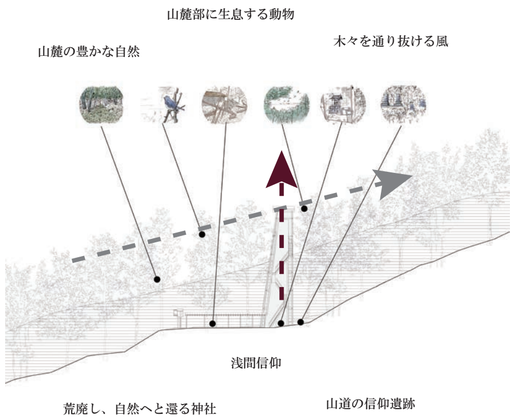
内的情景三十六

03 設計手法

01 形態操作

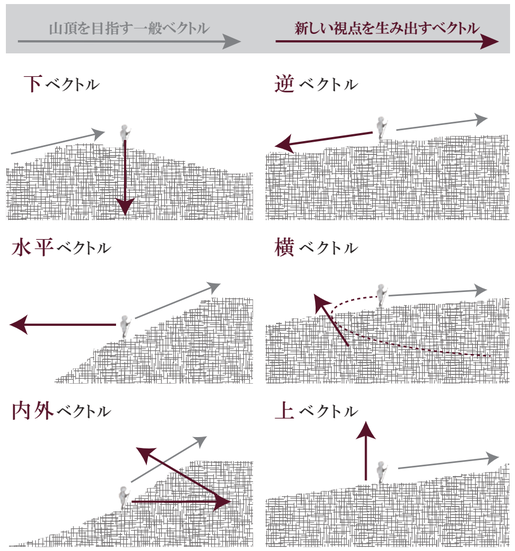
Phase01
内的要素と登山道の2つのベクトル

factor01 聴森社における内的情景との方向関係ダイアグラム



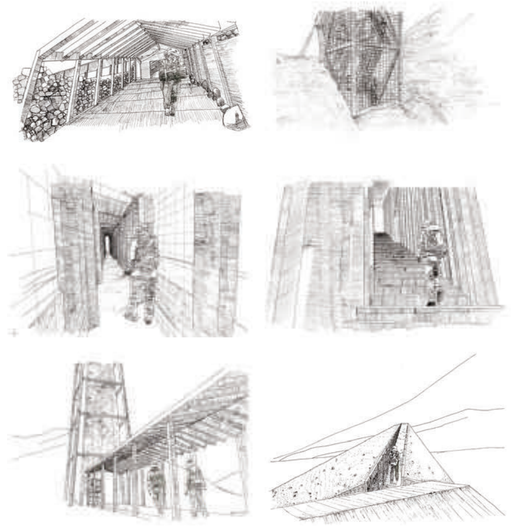
描き出したそれぞれの内的情景の位置と方向関係を、登山道に記述していく。ここで、**それぞれの内的情景に向かうベクトルが、富士登山では一般的な山頂へと向かうベクトルとは異なる方向に延びている**ことに気づく。

Phase02
新たなベクトルに沿って立ち上がる建築



そこで山頂を目指す一般的なベクトルに対して新しいベクトルを挿入し、そのベクトルに沿って建築を立ち上げていく。新しいベクトルは、描き出した内的情景が映し出される方向に向き、**現在の登山者が見ることがない新たな視点を生み出す。**

Phase03
自然と人の合間を繋ぎ合わせる建築

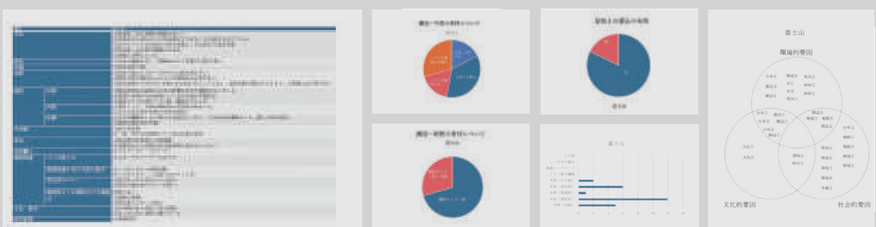


描かれた内的情景は、富士山における自然の要素そのものや、自然によって発生する日本人の思いの集積である。建築を自然と人の間に存在し、双方をつなぐものとして定義し、風、光、土、水などの**自然要素を建築に組み込むことで内的情景をうつしだす。**

02 富士山の構造物の分析と素材の検討

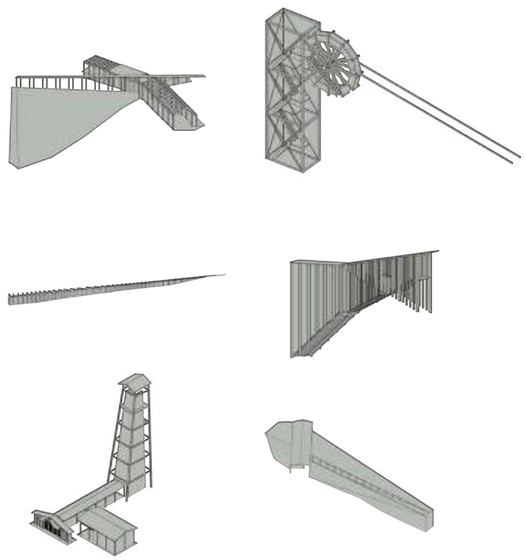
富士山における構造物の素材・構造などのリサーチを基に、6つの建築形態を決定する。

富士山には山小屋の他、導流提等のインフラや神社・祠など様々な構造物が存在する。これらの建築は富士山の厳しい自然環境の中で形成された独自の形態を持つ。これらの**建築の構造・素材などのリサーチを行い、本提案での6つの建築に落とし込んでいく**ことによって、富士山という特異な自然環境の中で存在しうる建築形態を決定していく。



富士山における構造物の素材の研究（一部）

富士山でみられる構造物

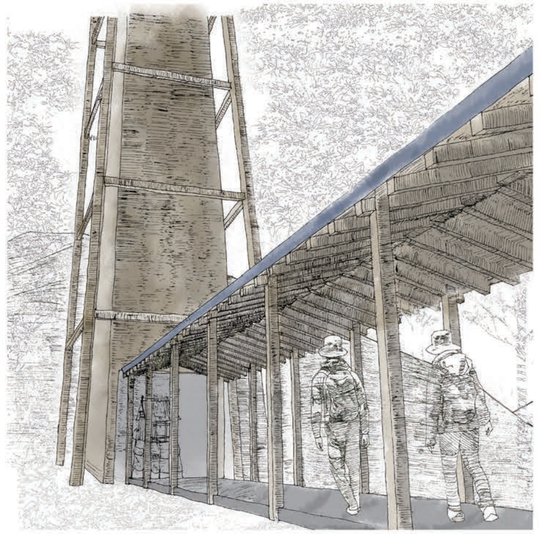


factor01

聴森社

森の声を聴くための神社

富士山麓の森林部にある、廃墟となってしまった富士信仰の神社。現在はむき出しになって金網で囲われている御神体を守り、登山者が祈るための神社を再建する。

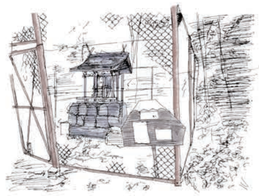


1700m

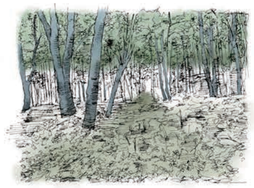
機能：神社、休憩所、展望台

内的情景

荒廃し、自然へと還る神社



浅間信仰



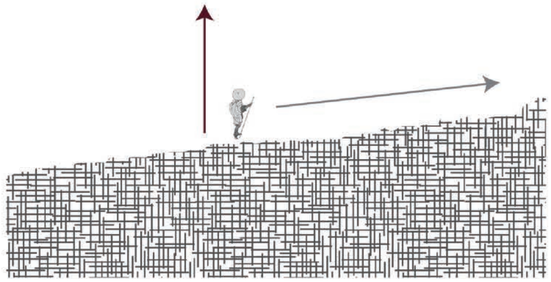
山麓の豊かな自然

山麓部に生息する動物

木々を通り抜ける風

山道の信仰遺跡

diagram：ベクトル操作―上ベクトル

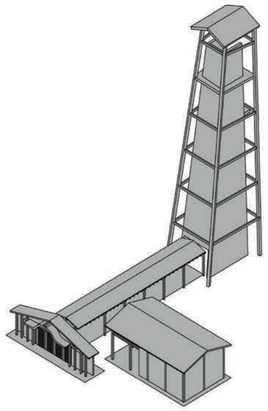


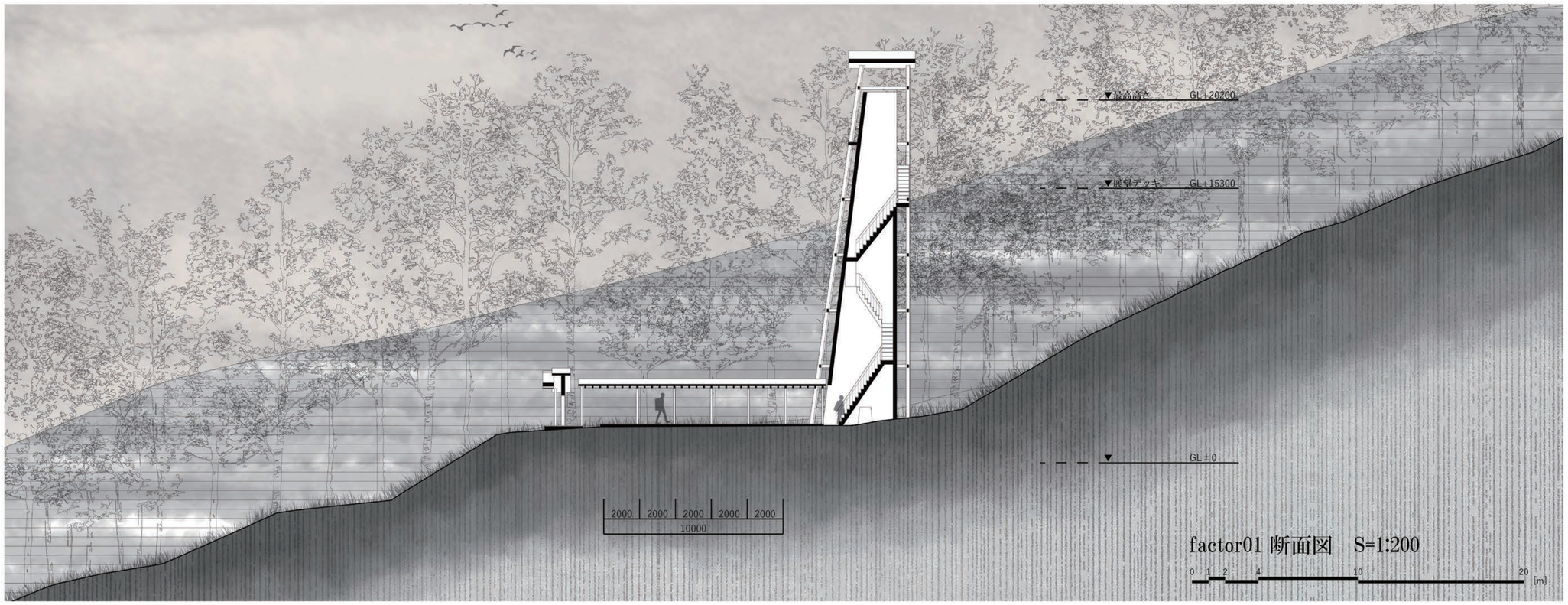
ここでは山頂に向かうベクトルに対して、上方向の新しいベクトルを与え、既存の神社と御神体を守る風突を提案する。

うつしだされる内的情景は、神社や遺跡などの信仰の痕跡と、森林における鳥をはじめとする動物の動きや木々を通り抜ける風である。

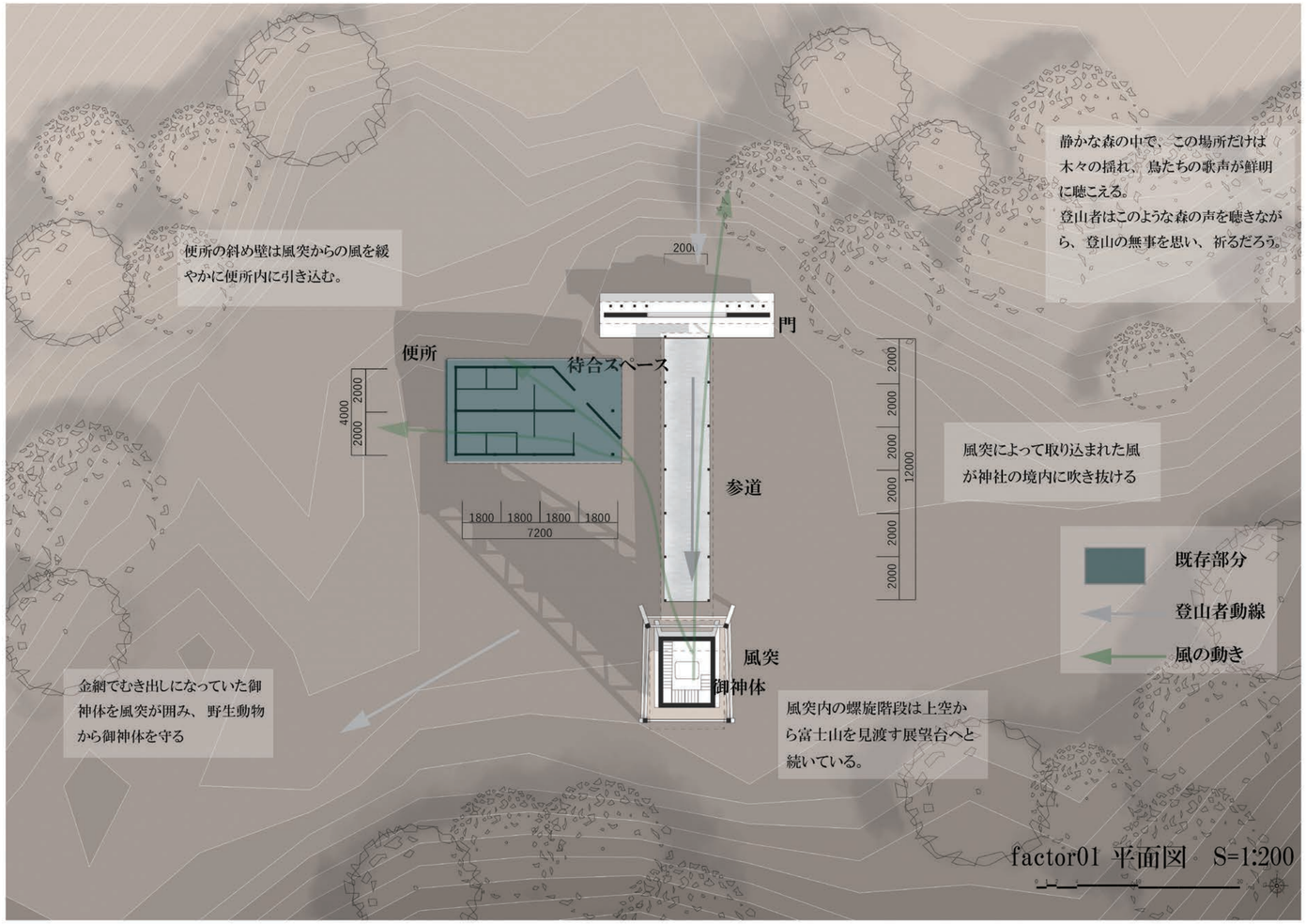
このような森林部における動きは地表に近い登山道よりもむしろ、森林の上部で感じることができる。上へのベクトルはこのような上下の内的情景をうつしだす。

factor01
聴森社





factor01 断面図　S=1:200



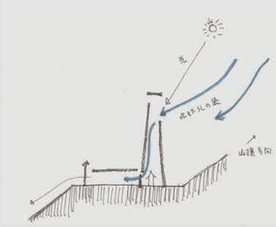
factor01 平面図　S=1:200

system：風が森の声を運ぶ

富士山のなかで静かな空間である森林の中で、森林の動き（森の声）を知覚するために風によって上下の空間をつなぐ。

I

富士山の風向
偏西風の影響で、富士山の基本的な風向は南西方向である



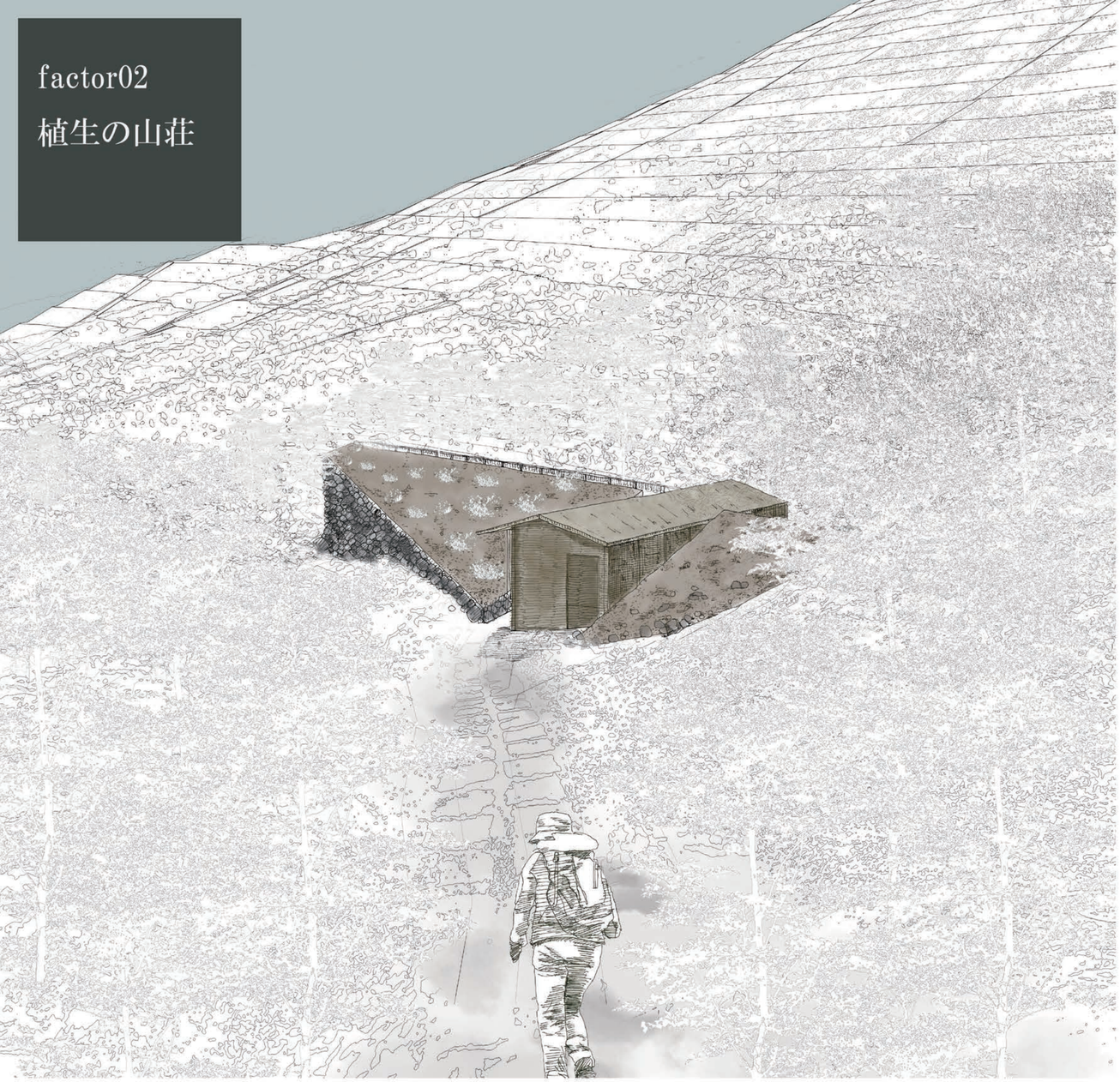
II

この場所では山頂方向からの吹き下ろしの風が吹いている。
風突はこのような風をつかまえ下方に流すことで、登山者は風が運んできた森林上部の森の声を聴く。

模型写真

factor02

植生の山荘

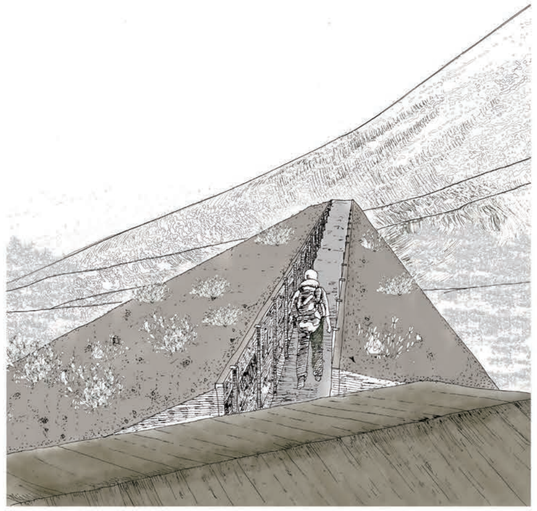


植生を見るための山荘

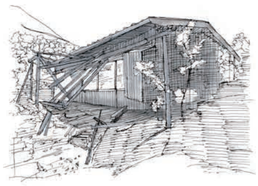
富士山の森林限界に位置する、御中道と呼ばれる富士山の中腹を一周するかつてのルートに存在する、御庭という高山植物がみられる場所がある。
この場所は登山シーズン以外にも利用できる最高地点である。現在は失われた山荘の跡に、通年利用できる簡易宿泊所としての山荘を計画する。

2300m

機能：山荘（簡易宿泊所）、展望台



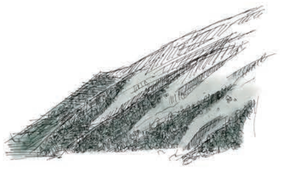
内的情景



朽ちていく山荘

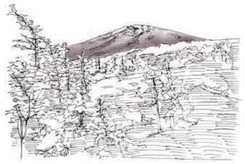
御中道

高山植物



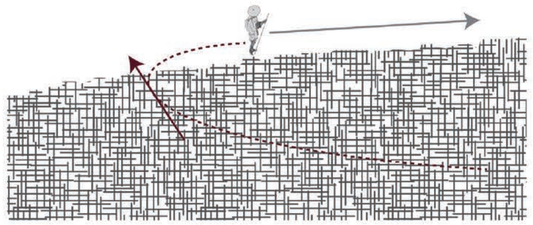
植生のコントラスト

富士山の四季



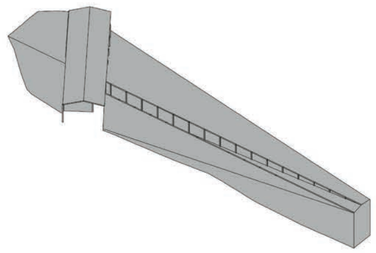
富士遙拝

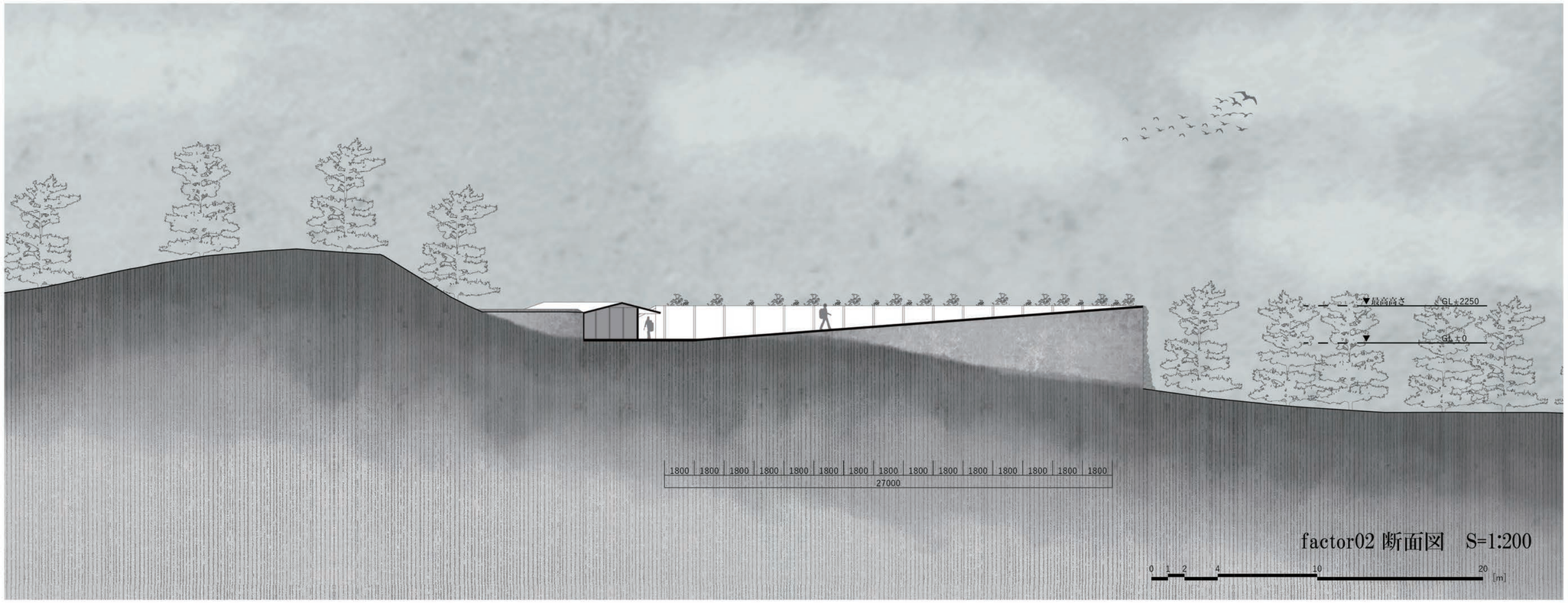
diagram：ベクトル操作―横ベクトル



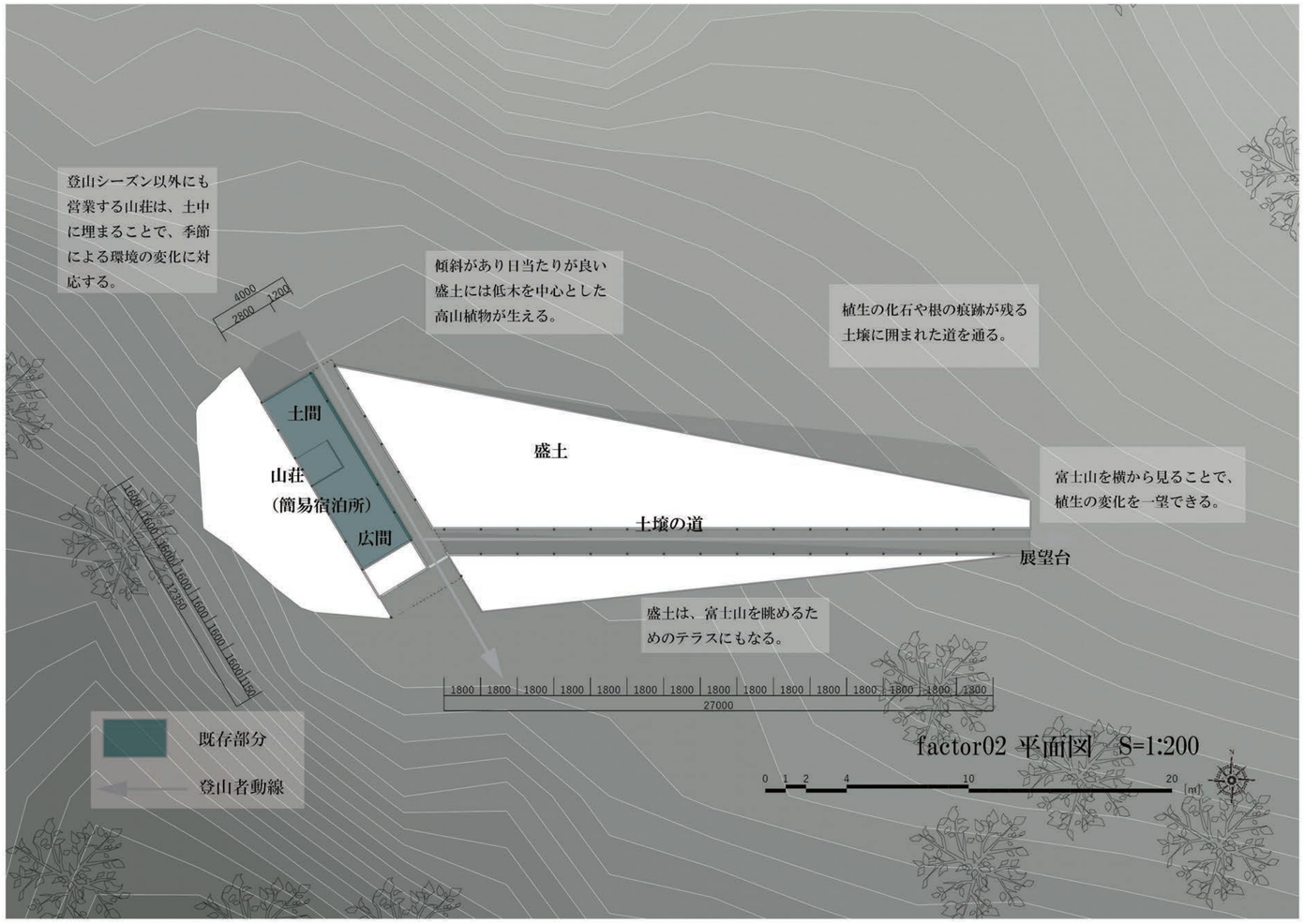
御中道の接線方向のベクトルが与えられ、富士山に対して横からの視点を生み出す。
うつしだされる内的情景は、御中道に存在する、四季によって変化する富士山の高山植物である。富士山は標高によって植生が変化する。横からの視点は山上部の植生が全くない部分と山麓部の植生が垂直分布する部分の二面性という内的情景をうつしだす。

factor02
植生の山荘





factor02 断面図　S=1:200



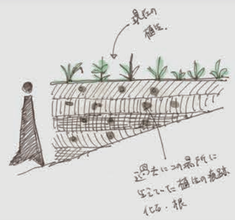
factor02 平面図　S=1:200

system：植生の痕跡を保存する

富士山における植生の特性をリサーチし、これからの植生の変化を痕跡として集積していく。

I

比較的新しい火山である富士山は、気候変動によって今後の植生の変化が想定される。森林限界が上昇することでこの場所に存在する高山植物が失われていく。



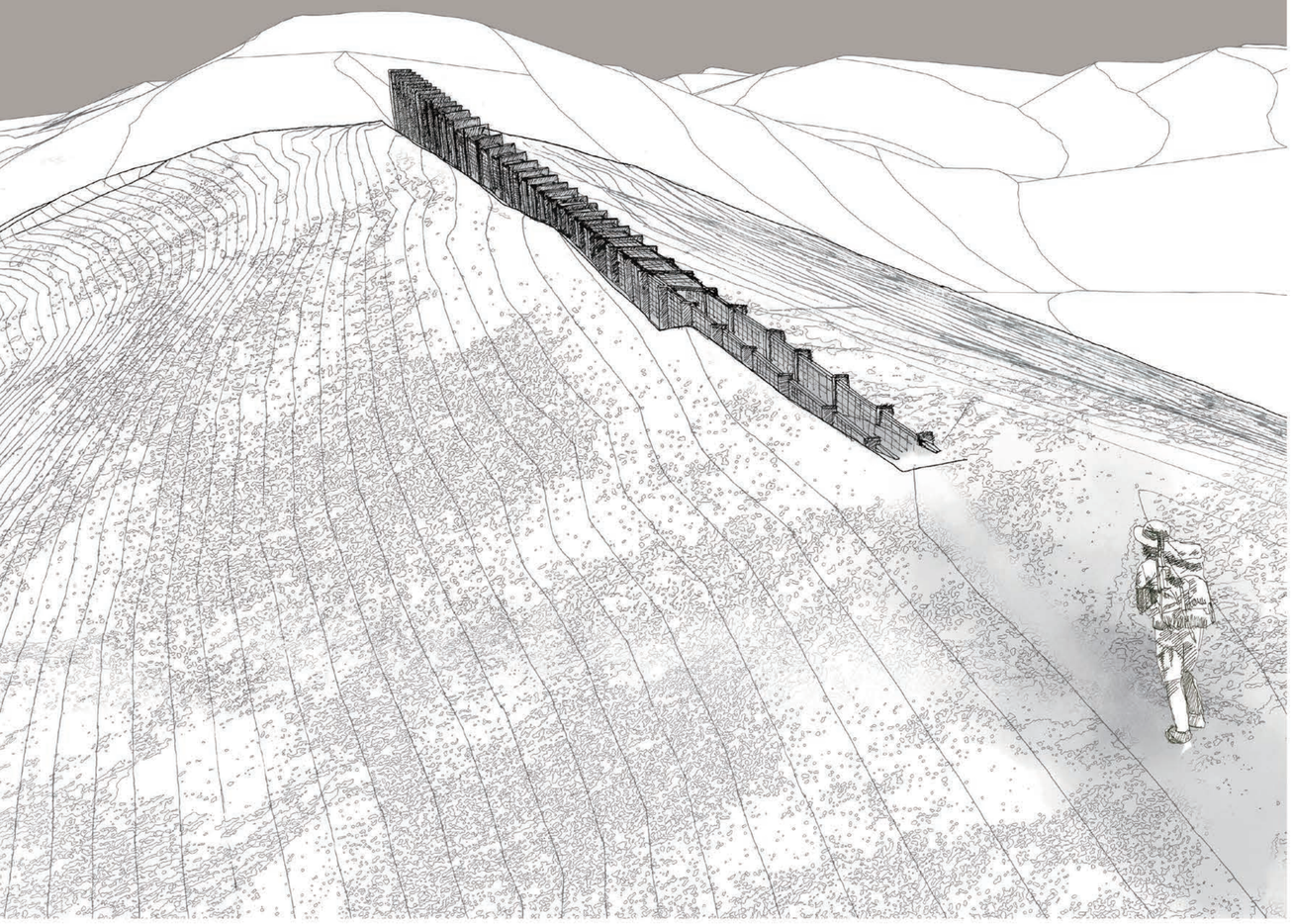
II

盛土によって、高山植物が生えるための土壌をつくりだす。土壌は植生の葉の化石や根などを含み、植物の痕跡が集積されていく。登山者は土壌の断面の道を通ることで、この場所に生えていた植生の痕跡を知覚する。

模型写真

factor03

痕跡の景道

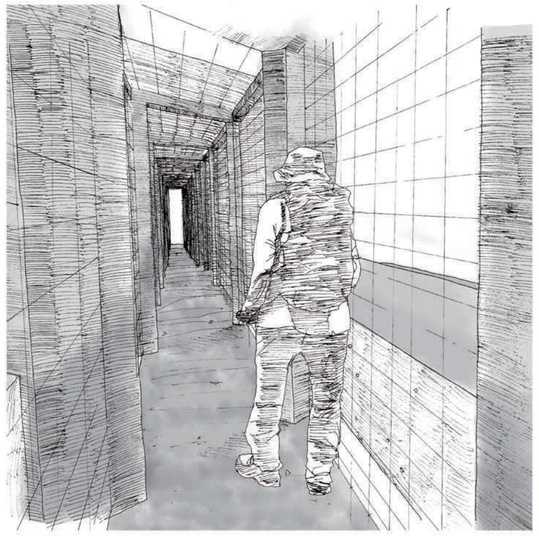


噴火の痕跡を辿る坑道

2690m

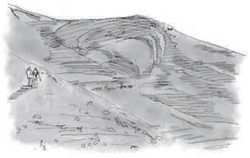
機能：シェルター道

江戸時代に起きた宝永噴火の痕跡が残る宝永火口と、噴火によってできた側火山の宝永山へと延びる馬の背を辿る坑道を計画する。 坑道は、 非常に風が強く吹くこの場所に、 風をよけつつ噴火による火山灰が堆積してできた大地を知覚するためのシェルター道となる。

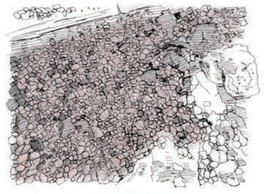


内的情景

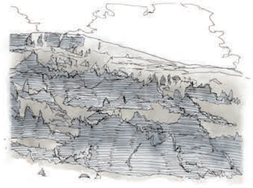
噴火の痕跡が残る火口



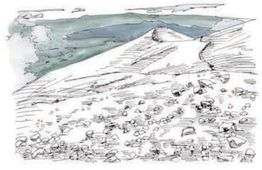
火山灰によって形成された大地



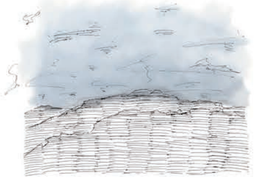
スコリア質の地面



マグマで形成された岩脈

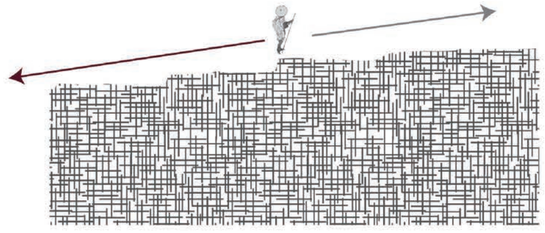


山道から見た景色



富士山の気象

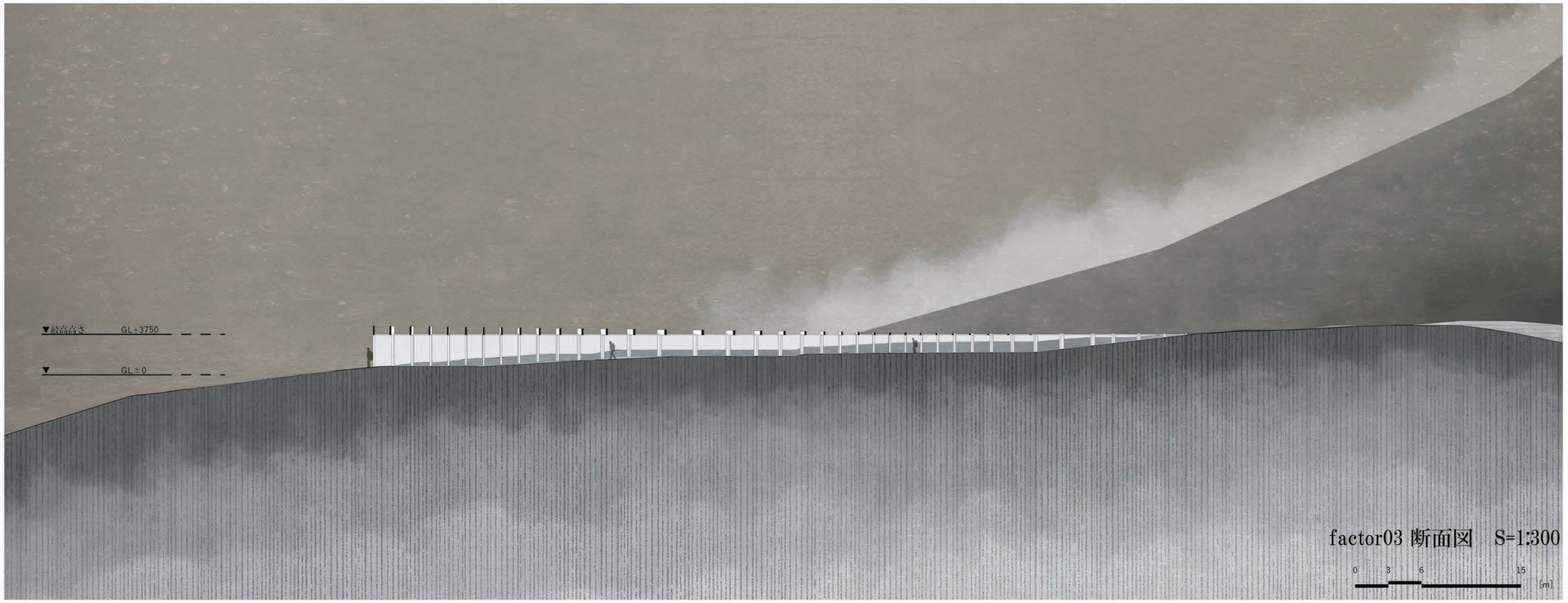
diagram：ベクトル操作―逆ベクトル



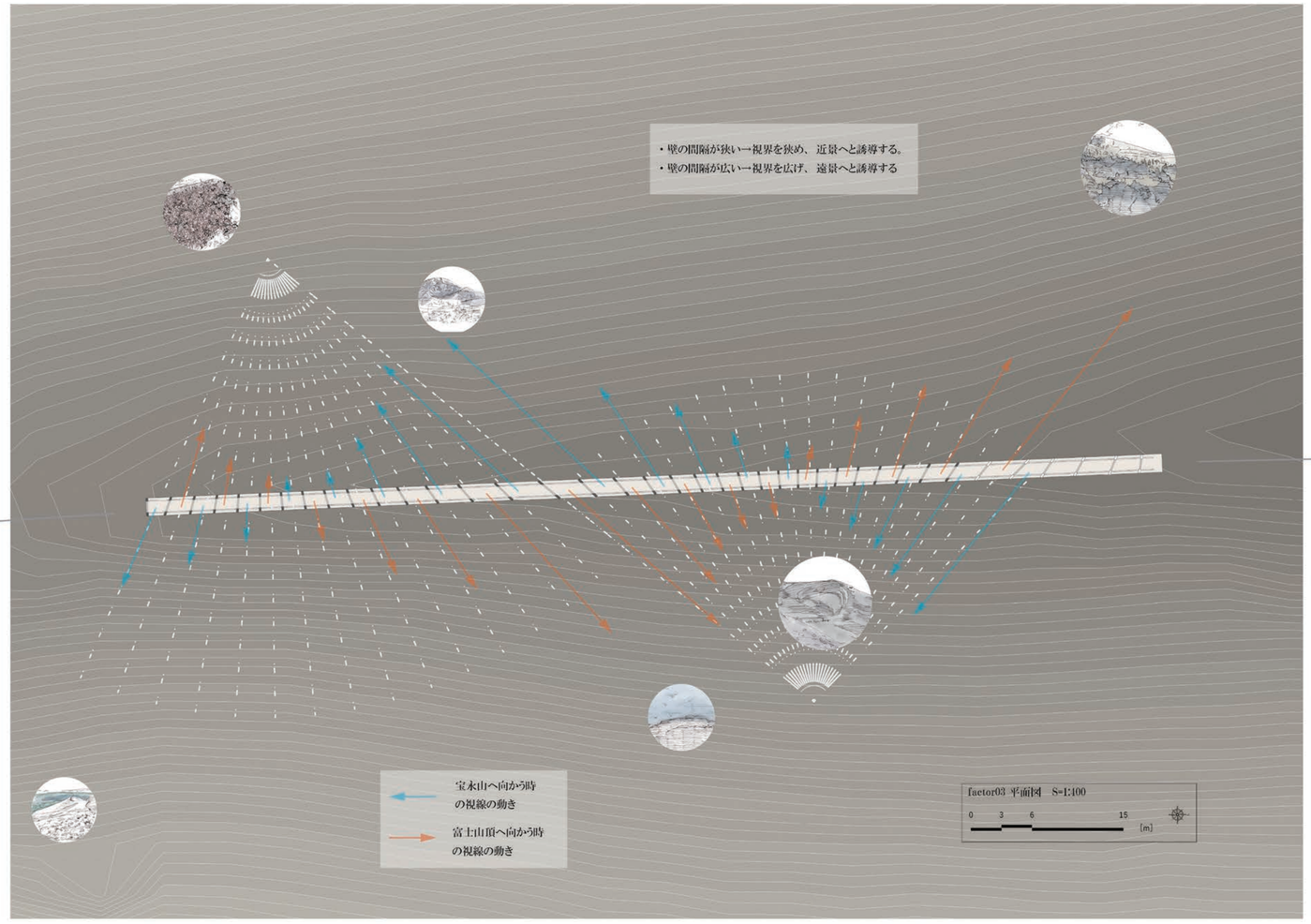
宝永山に続くルートは設備が少ないため多くの人は登らず、富士登山において見過ごされている。ここでうつしだされる内的情景は、噴火によって形成された大地である。この宝永山に向かう方向は、山頂を目指すベクトルとは逆のベクトルを与えており、逆方向のベクトルは、山麓方向への視点を生み出す。

factor03

痕跡の景道

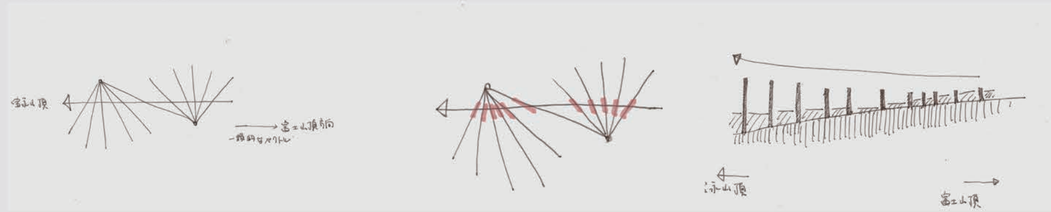


factor03 断面図　S=1:300



system：火口の風景を切り取る

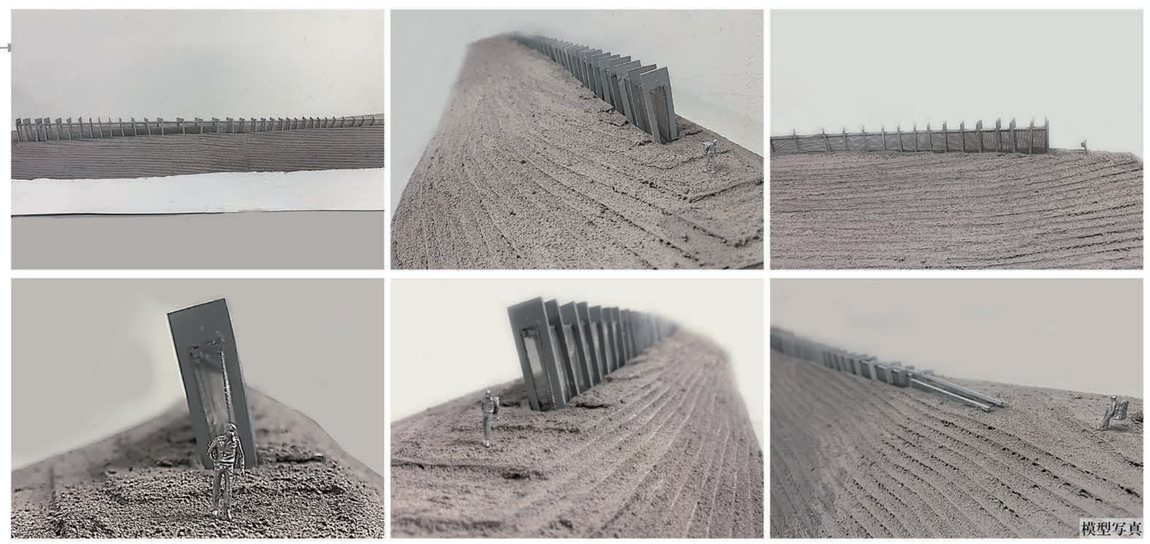
描かれた内的情景は近景と遠景に分けられる。これらを知覚するために連続する壁によって風景を切り取り、登山者の視覚を操作する。



Ⅰ：地面などの近景のポイントから放射状に線を伸ばしていく

Ⅱ：線に従って風景を切り取る壁を配置する。壁の間隔や角度によって、近景と遠景の視線を操作する

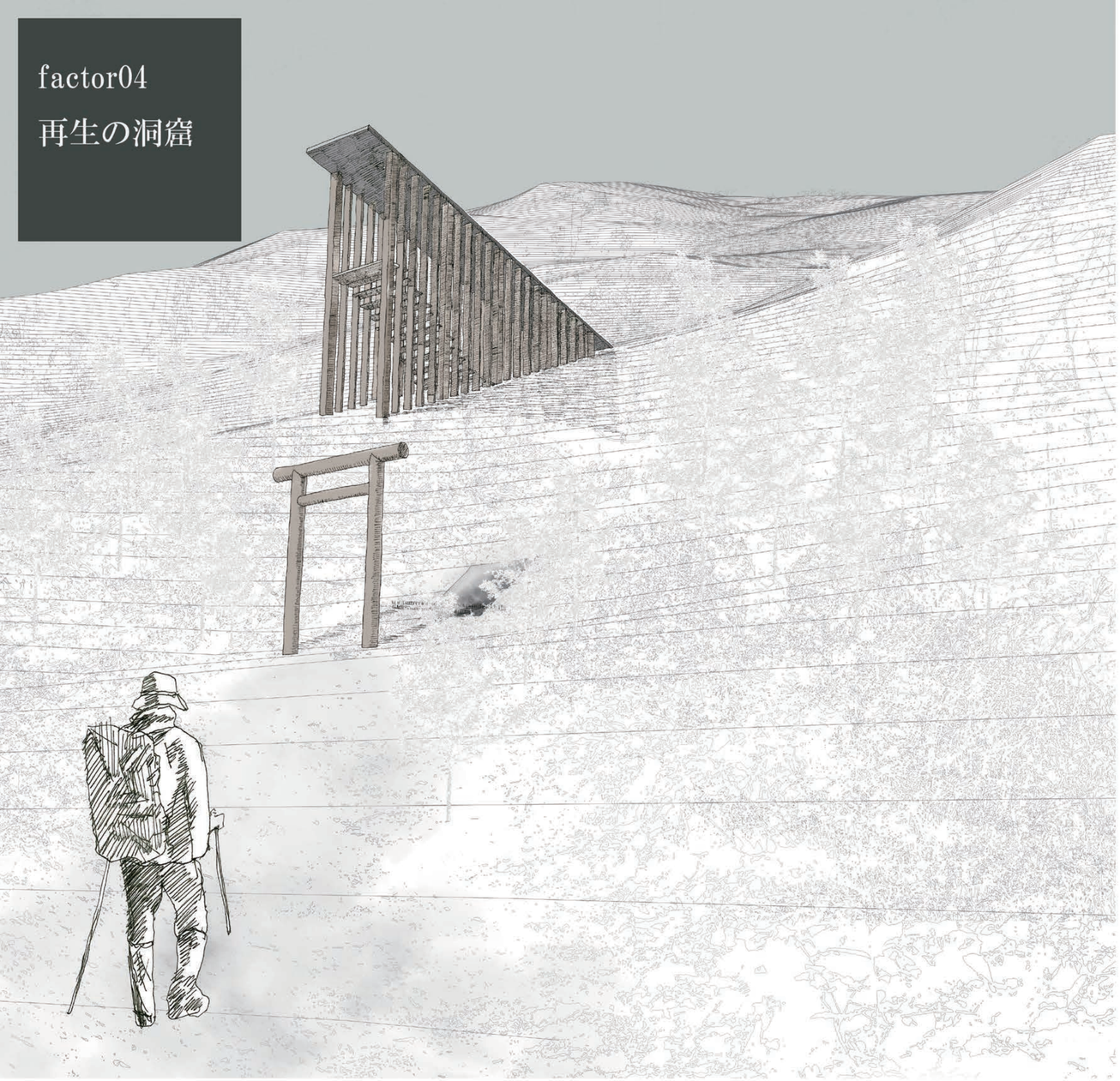
Ⅲ：宝永山に近づくにつれて壁が徐々に高くなることで、建築が登山者の視界から消えてゆき、裾野に広がる景色が開ける。



模型写真

factor04

再生の洞窟



死と再生の精神を抱く参道

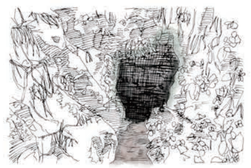
2700m

機能：参道、登山道、神社

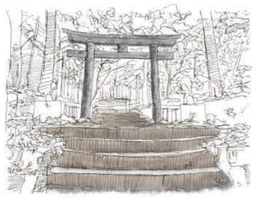
富士山には火山活動によって形成された洞窟があり、富士信仰ではそこに入ることで「死と再生」を意味している。 計画地はこのような洞窟とそこにある神社である。

内的情景

胎内に見立てた神社

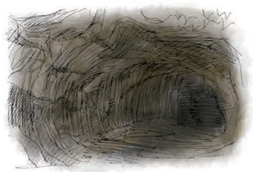


火山活動によって形成された洞窟

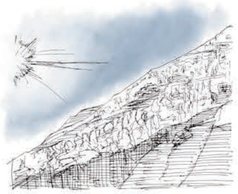


登拝の歴史が残る登山道

死と再生の精神



胎内巡り

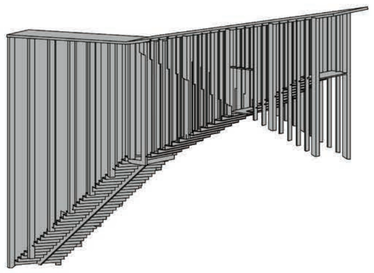


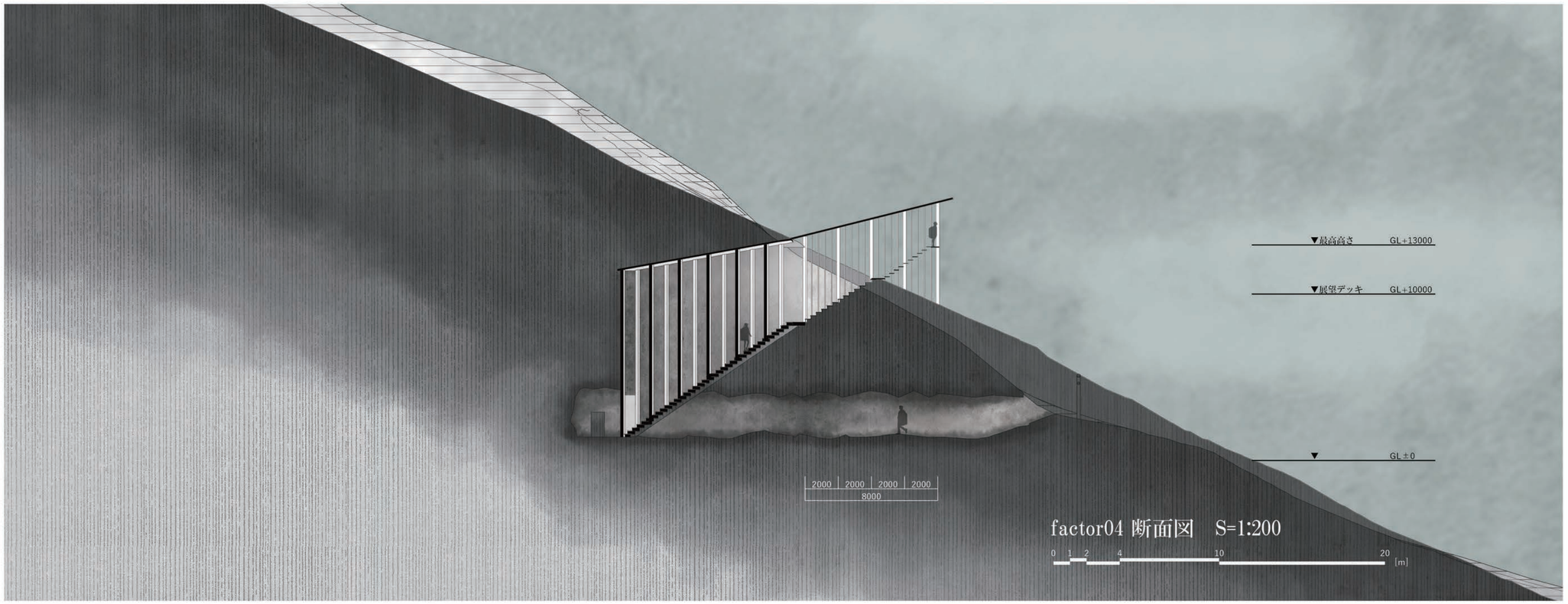
富士山に降り注ぐ光

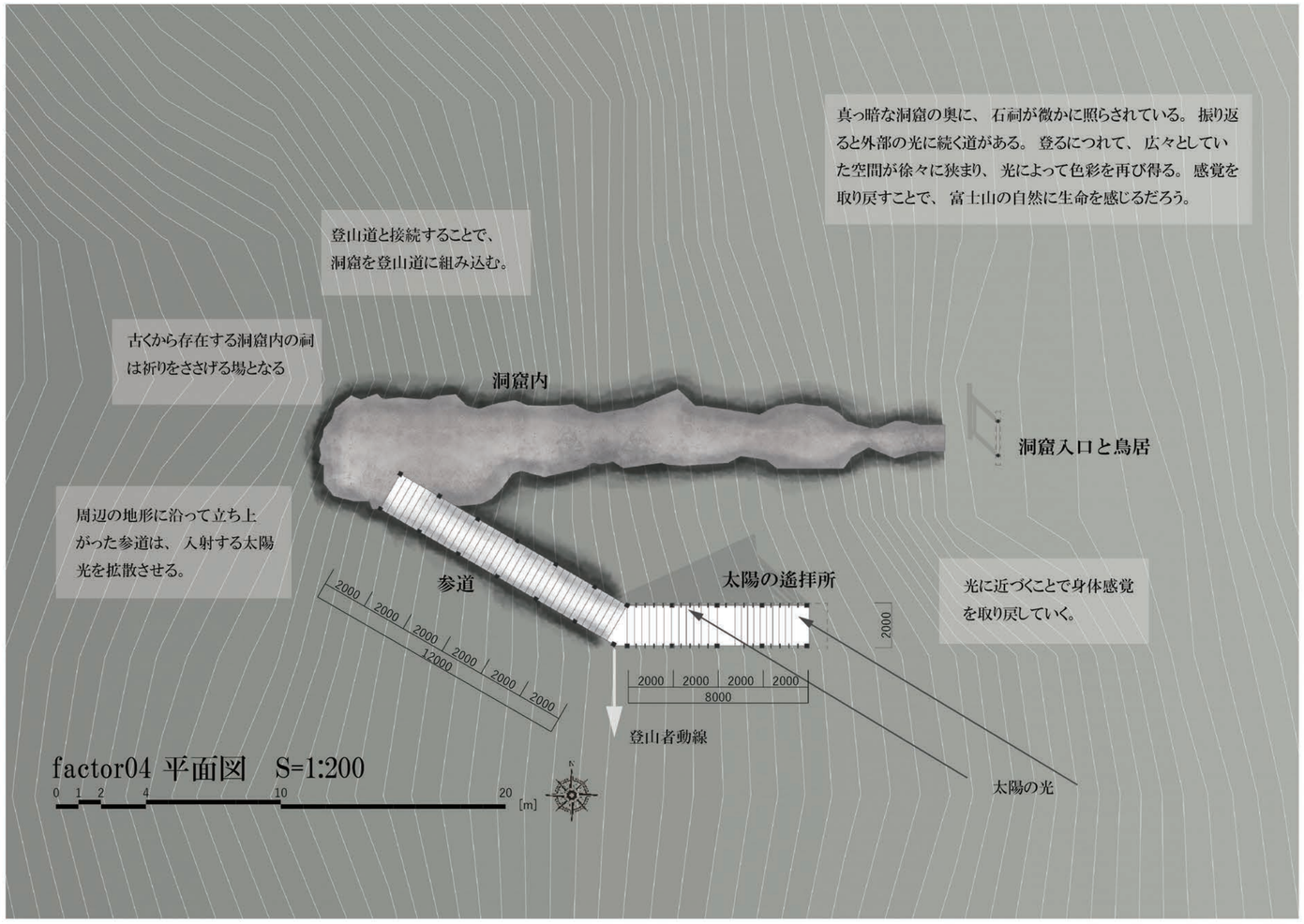
diagram：ベクトル操作—内外ベクトル

現在は整備された山小屋の裏に人知れず佇んでいるこの場所を登山道に組み込んでいくことで、 洞窟に沿った中に入るベクトルと、 太陽の光に向かう外に出るベクトルを与える。
富士山の死生観は富士信仰の文化に触れる上で重要な要素である。 母の胎内に見立てられた洞窟の神社は、 自然の中に生命の根源を感じる日本人の精神性が反映されている。
既存の洞窟による富士山の内部に入るベクトルと、 計画された参道による外に出るベクトルは、 このような内的情景をうつしだす。

factor04
再生の洞窟

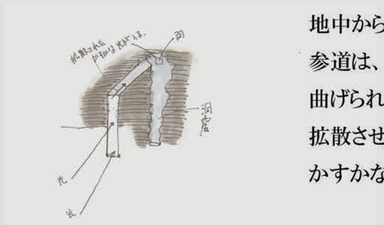






system：光と感覚の操作により「死と再生」の空間をつくりだす

感覚が遠くなること＝「死」と解釈し、富士山に降り注ぐ光と洞窟の闇によって洞窟に入り、出るシークエンスによって、身体感覚を取り戻す。



Ⅰ

地中から太陽へと延びる参道は、地形に沿って曲げられ、入射する光を拡散させて、洞窟内にかすかな光を届ける

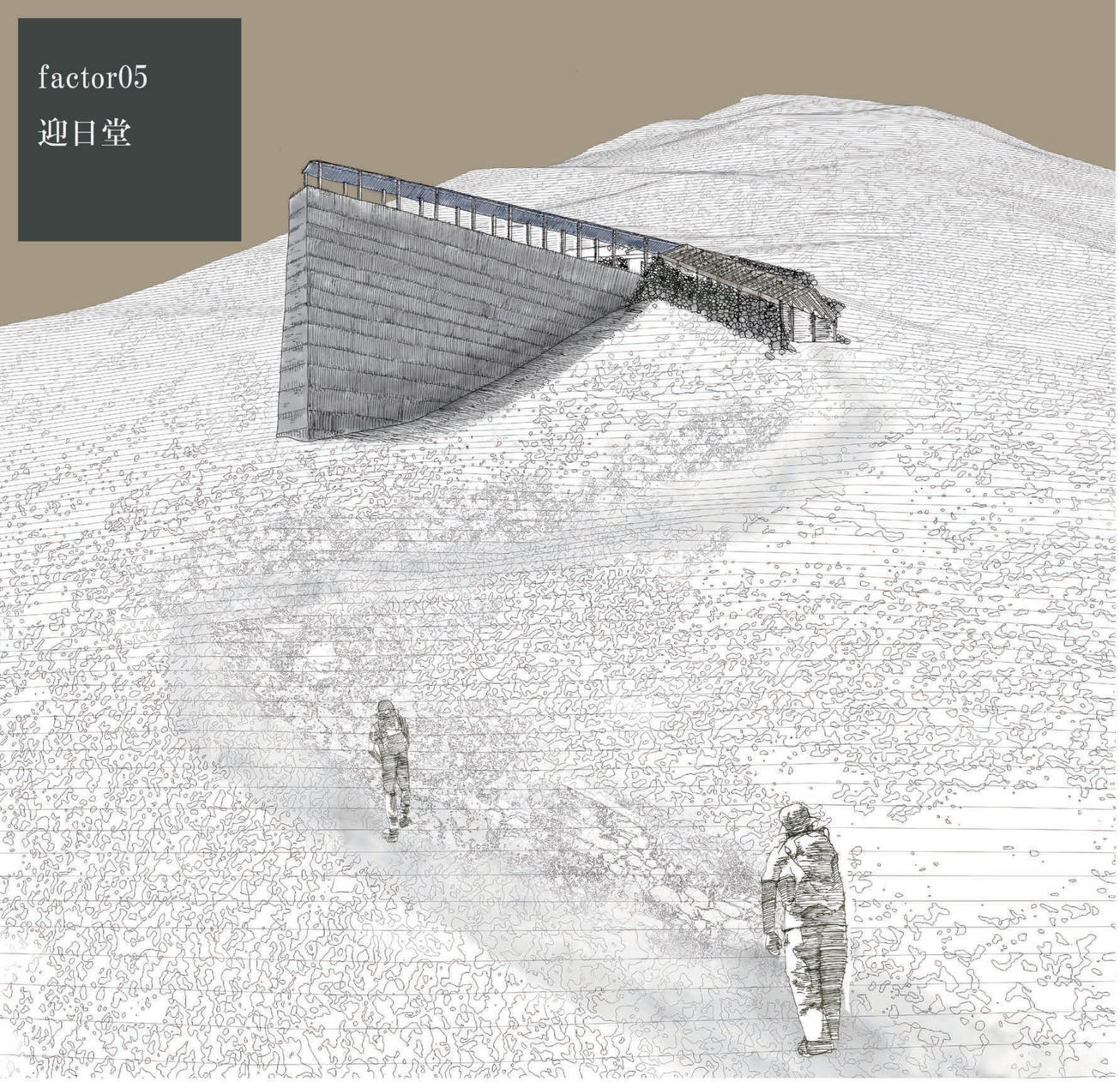
Ⅱ

光に近づくにつれて、空間が狭くなる（＝ヒューマンスケールになっていく）ことで、身体感覚を徐々に取り戻していく。

模型写真

factor05

迎日堂



歴史に触れる遙拝堂

3560m

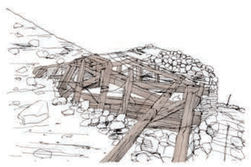
機能：遙拝堂、土流提、シェルター

山頂手前にある、廃墟となった神社に、シェルター道と土流提を計画する。既存の建築を拡張することで、登山者を守るための道をつくりだす。

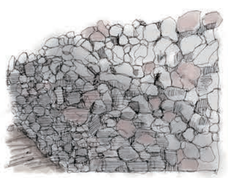
内的情景

信仰遺跡

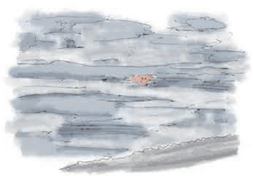
石室



破壊と再建の歴史



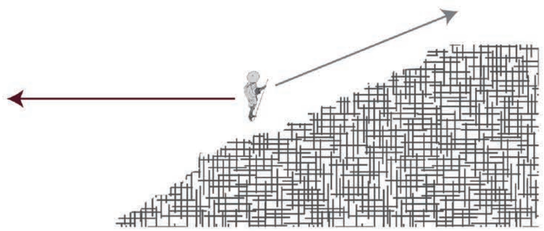
石積みで形成された登山道



御来光

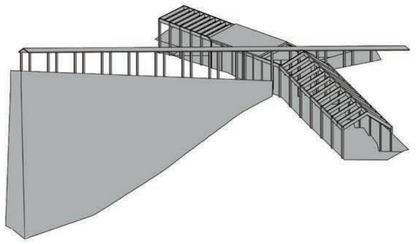
御来迎

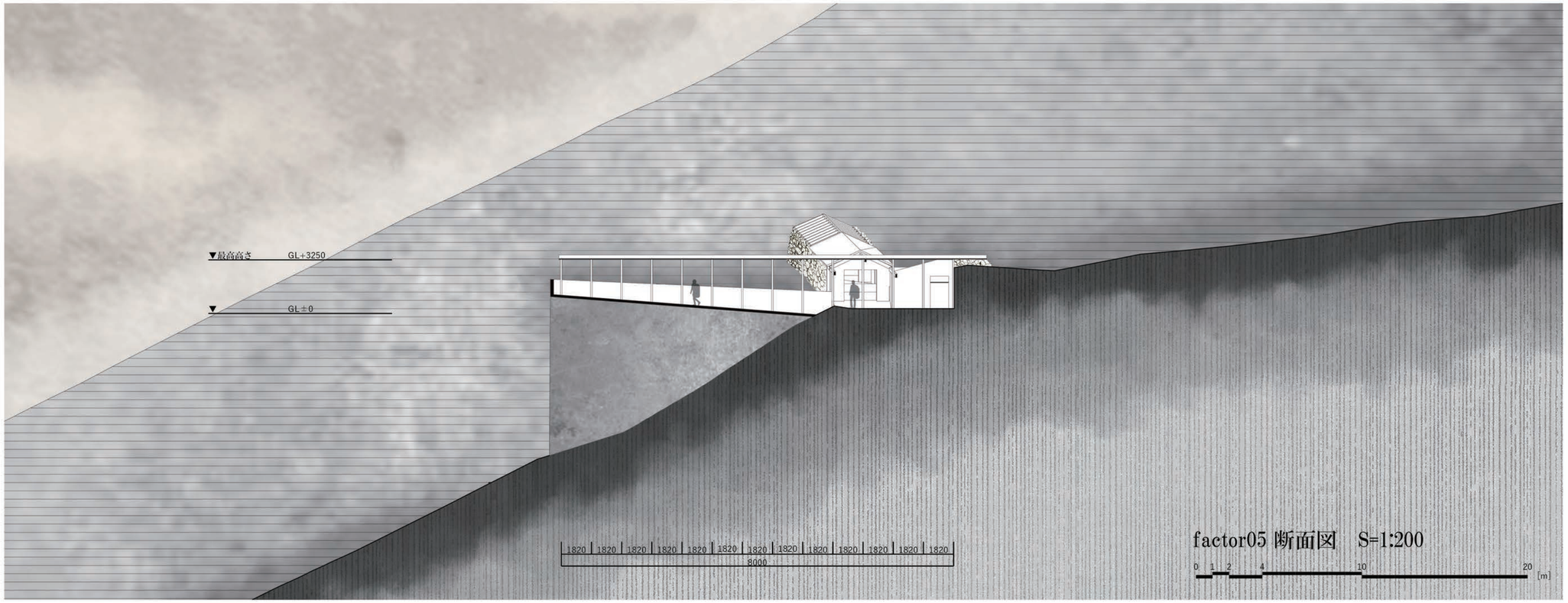
diagram：ベクトル操作—水平ベクトル



石積みで形成された道は、富士山特有の建築文化を表している。このような道に対して、古くは日の出を見るための重要な場所であったことから、水平方向に存在する内的情景を映し出すベクトルを挿入し、水平方向に延びる土流提を配置する。歴史ある道と、新たな土木構造物が交差することで、富士山に存在する建築の歴史を感じるための道をつくりだす。　新たな視点を与える。この水平方向のベクトルによって立ち上がった土流提は日の出を拝むための遙拝堂にもなる。

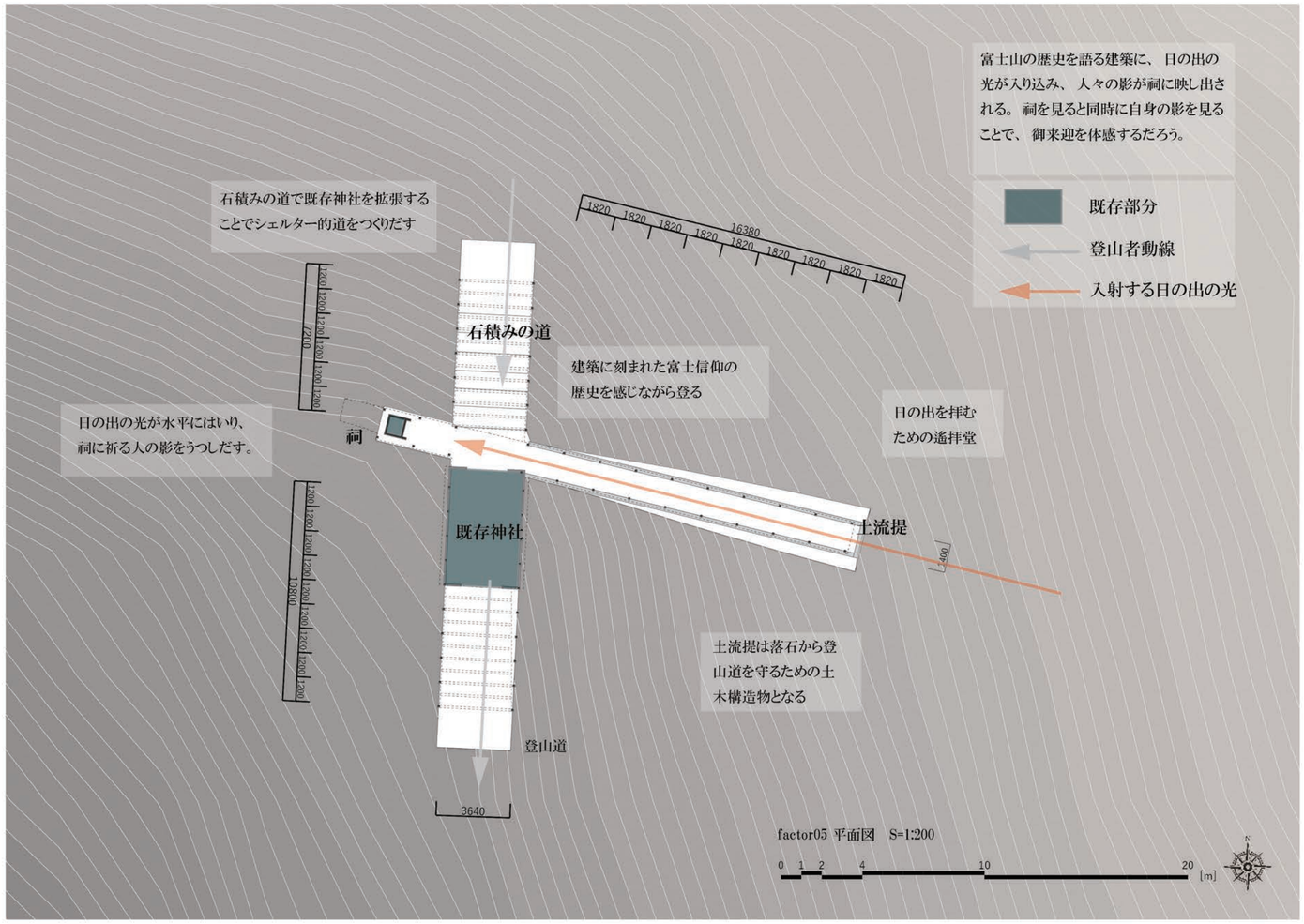
factor05
迎日堂





factor05 断面図　S=1:200

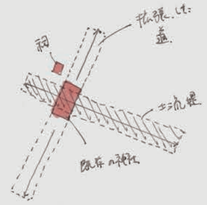
0 1 2 4 10 20 [m]



factor05 平面図　S=1:200

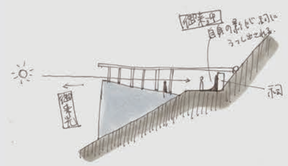
system：歴史が交じり合う建築に日の出を映し出す

Ⅰ：配置

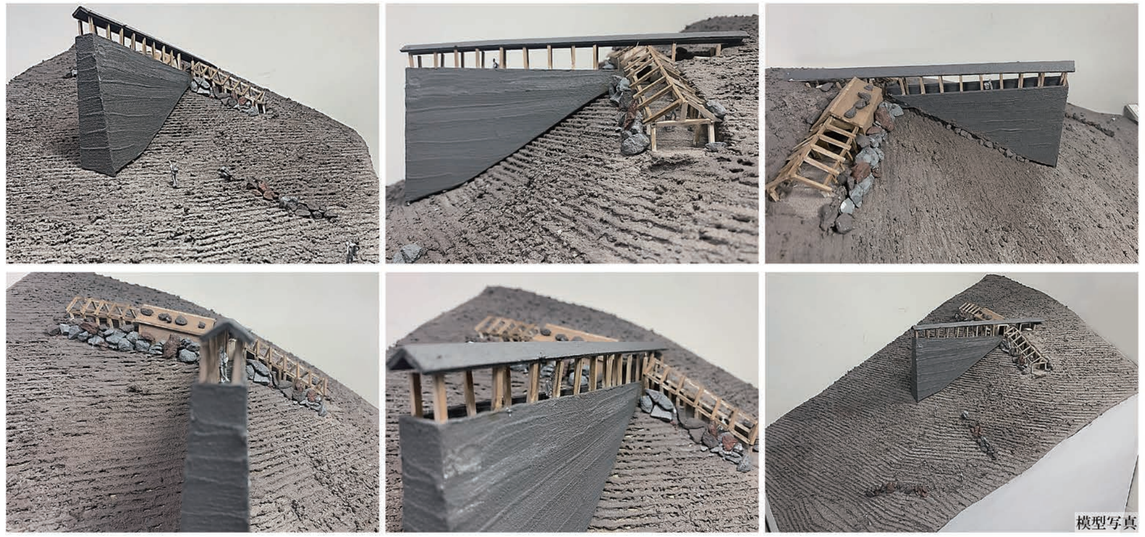


既存の建築を拡張した道と新たなベクトルによってうまれた土流提を交差させる

Ⅱ：御来光と御来迎



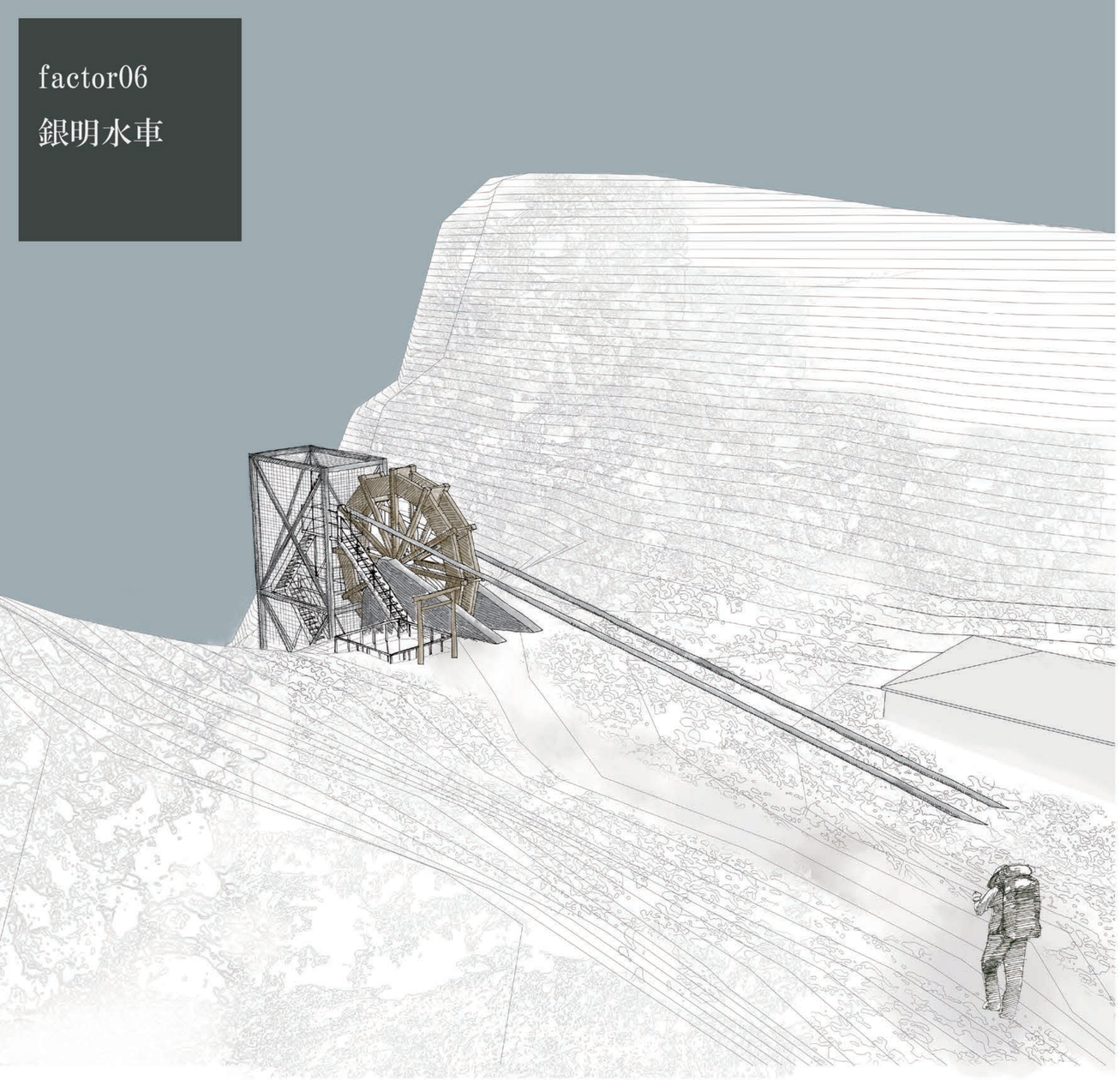
古くの富士山では日の出（御来光）ではなく、映し出された自身の影（御来迎）を仏に重ねてみていたのである。太陽と反対方向にある祠に、日の出の水平に入る光を当てると、祠を見る人は意図せず自身の影を拝むだろう。



模型写真

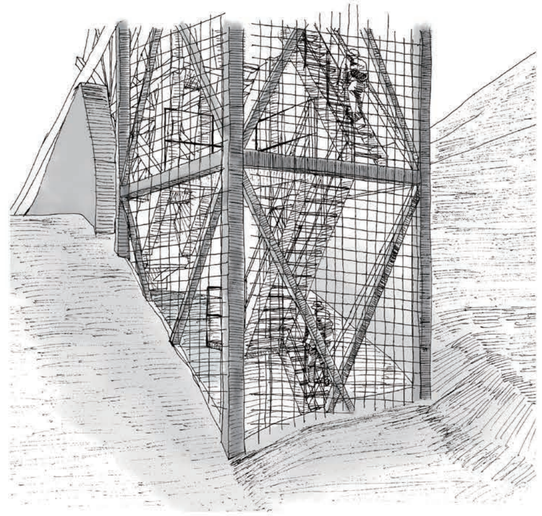
factor06

銀明水車



水の恵みを得る井戸と貯水棟

山頂には、かつて雪解け水が湧き出ていた井戸の跡がある。水が雨水以外に得られない富士山において、頂上の万年雪や雪解け水は貴重な恵みである。そんな富士山における水の恵みを知覚するための水車を擁する井戸と貯水棟を計画する。

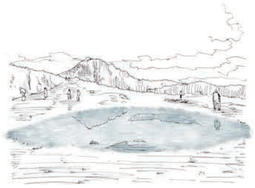


3710m

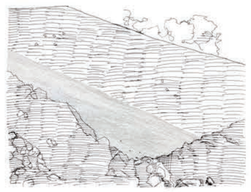
機能：井戸、貯水棟、避難所

内的情景

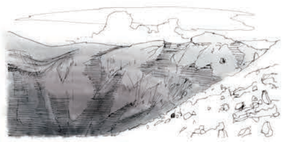
山頂の遺跡



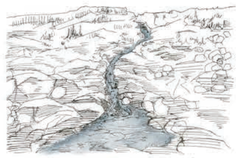
山頂の雪解け水



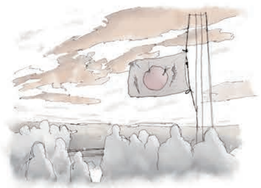
万年雪



山頂の火口

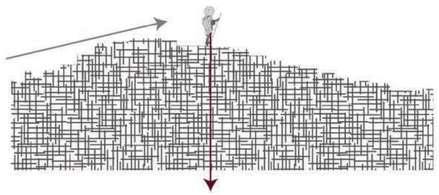


富士山の伏流水



山頂における風の動き

diagram：ベクトル操作―下ベクトル

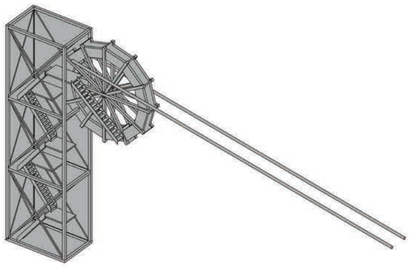


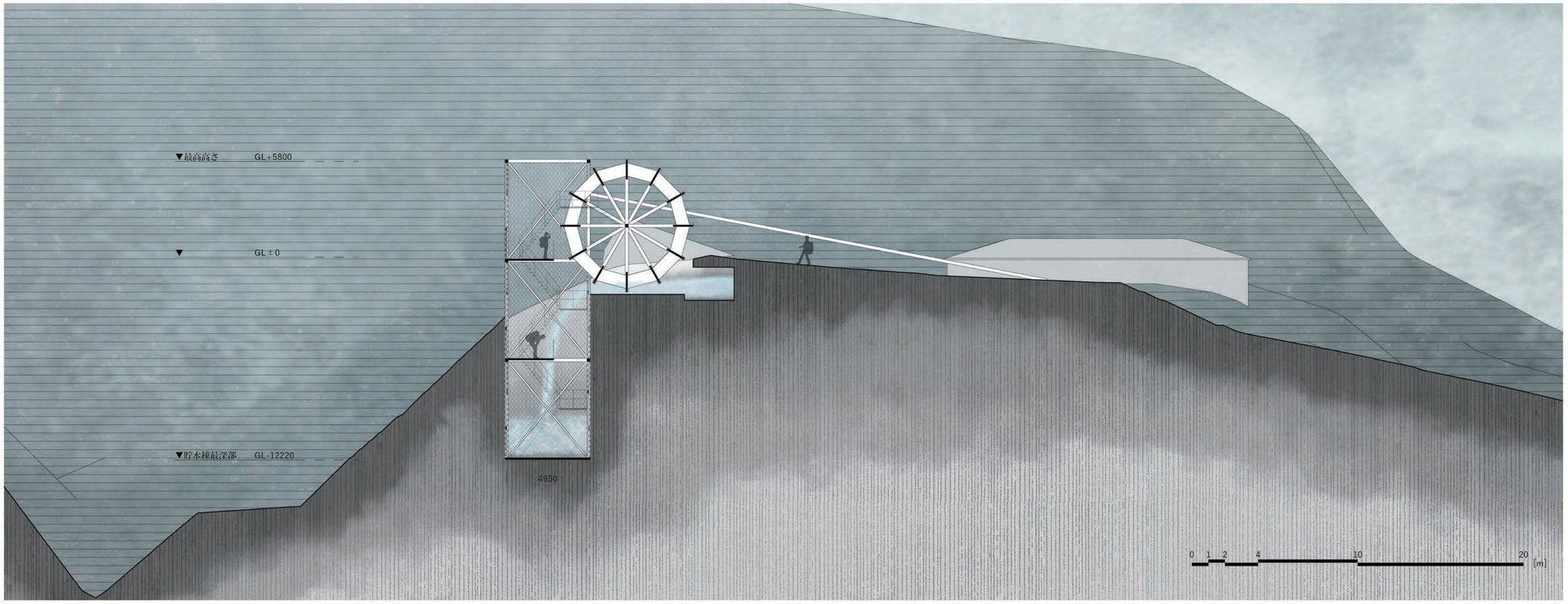
うつしだされる内的情景は富士山における水の恵みと山頂の自然要素である。山体に降る雨や雪は富士山の地面に染み込み、湧水となって山麓部で湧き出す。

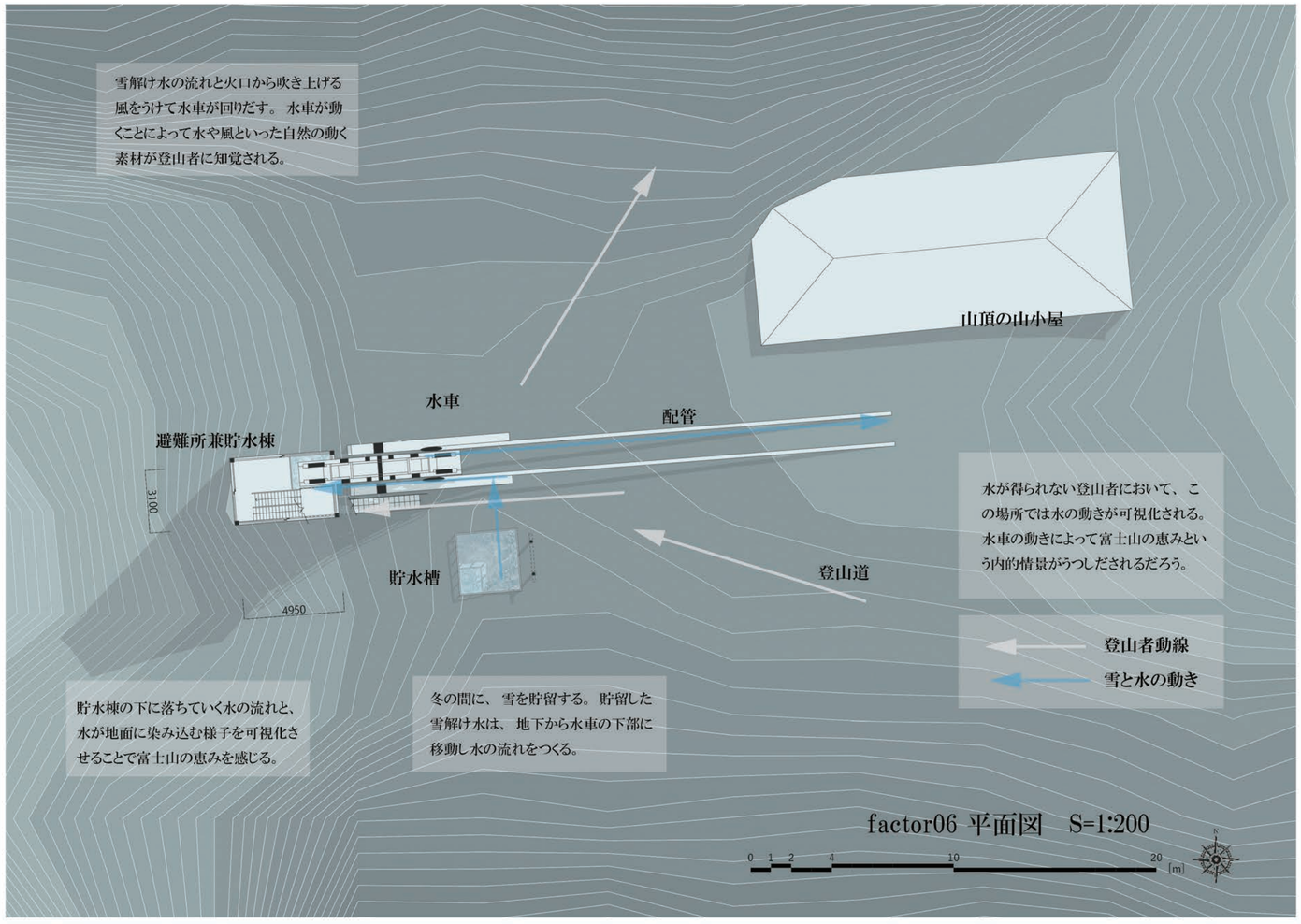
下へのベクトルによって、このような富士山における水の恵みのメカニズムを可視化させる。

factor06

銀明水車

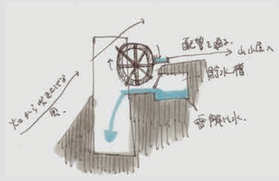




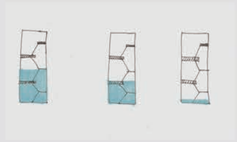


factor06 平面図　S=1:200

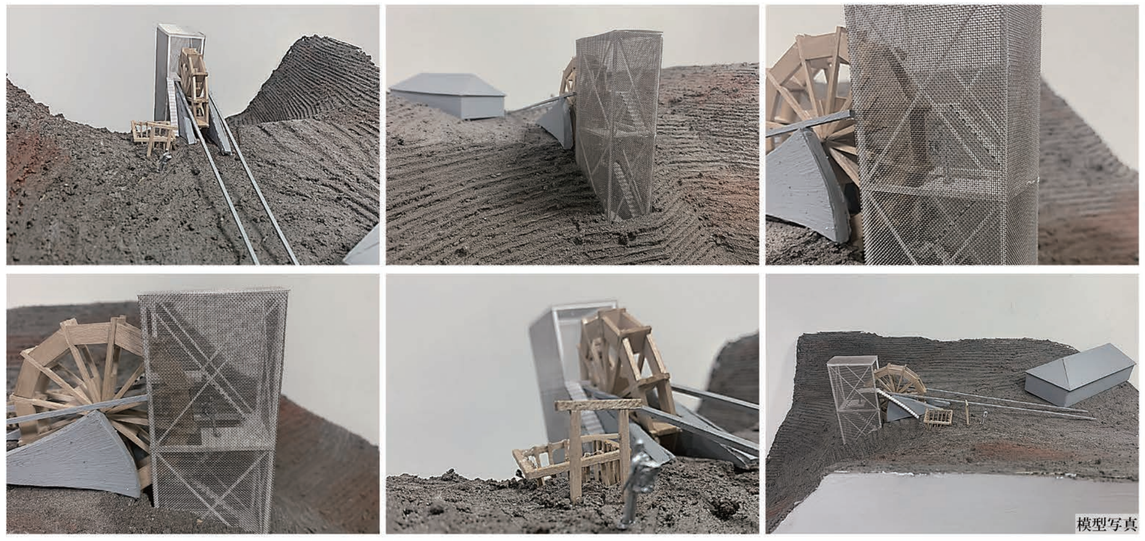
system：水車の動きによって、富士山における水の恵みを知覚する



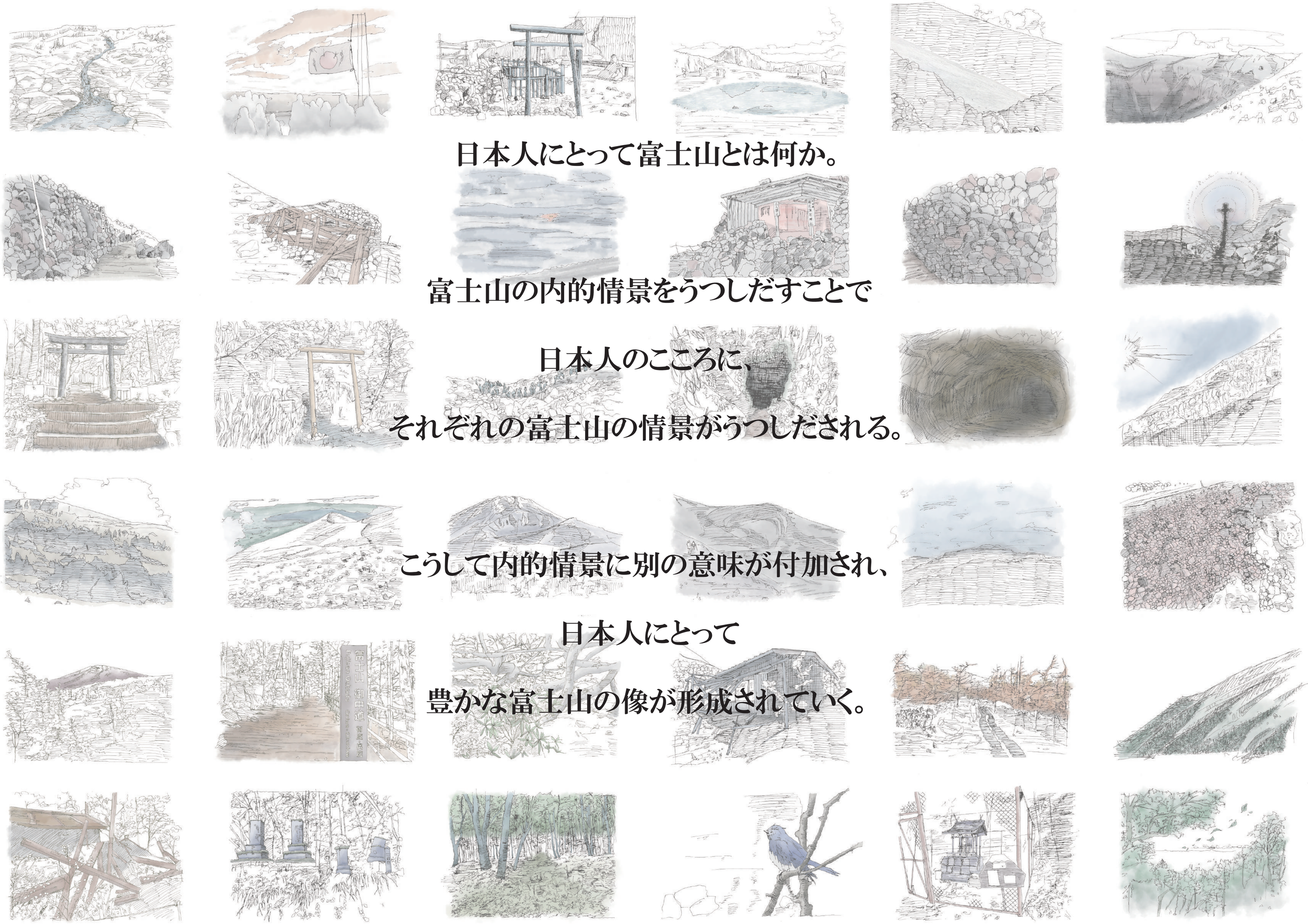
Ⅰ：水車のシステム
冬の間雪を貯留し、その雪解け水の流れと火口から吹き上げる風の動きによって水車が動き出す。水車でくみ取られた水は、周辺の山小屋へ伸びた配管によって水を供給する



Ⅱ：避難所兼貯水棟
レベルごとに滞留空間を設け、雪解け水の増減によって上下に変化する水位によって空間がつくりだされる。



模型写真



日本人にとって富士山とは何か。

富士山の内的情景をうつしだすことで

日本人のこころに、

それぞれの富士山の情景がうつしだされる。

こうして内的情景に別の意味が付加され、

日本人にとって

豊かな富士山の像が形成されていく。